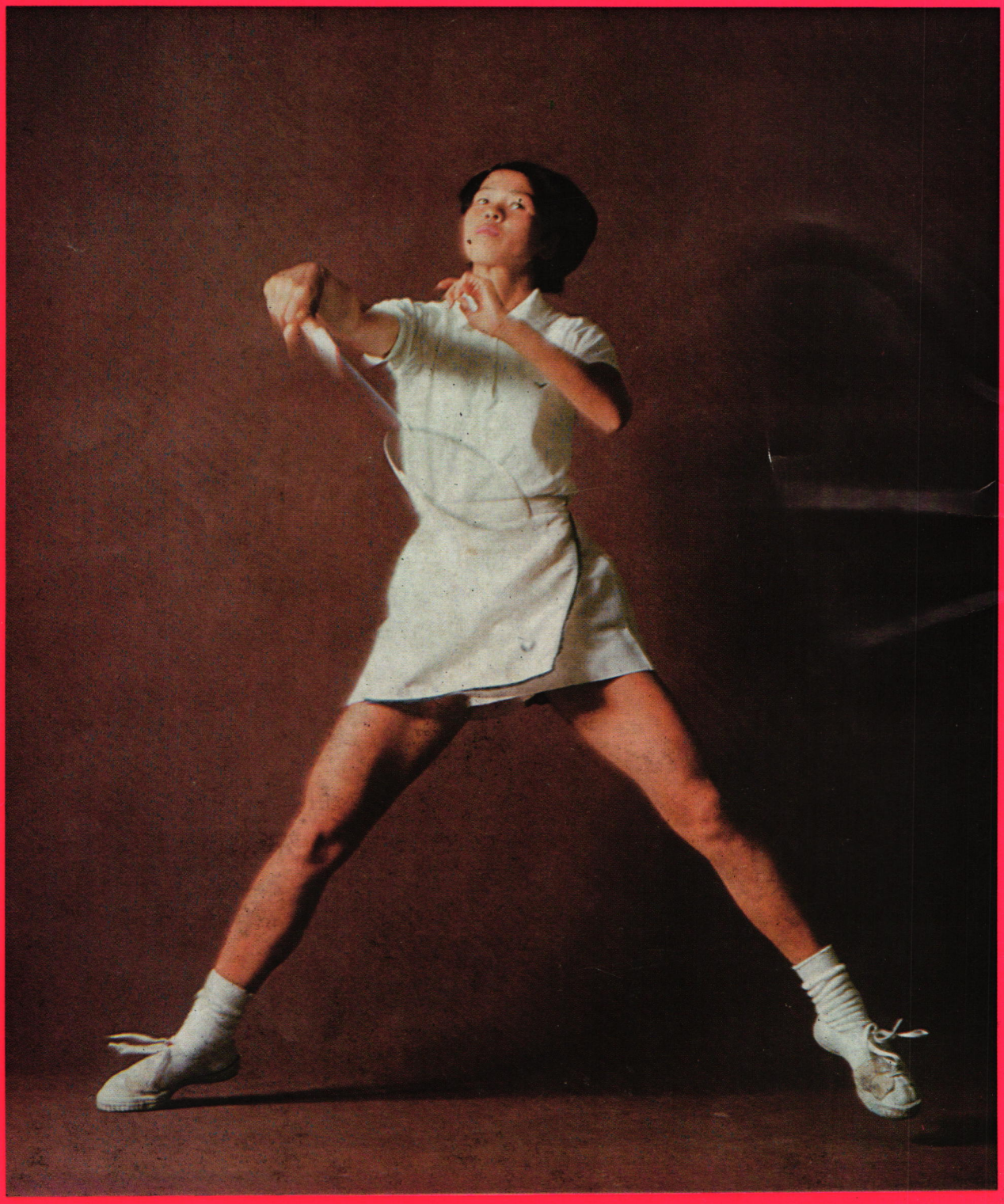
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和45年12月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.16
1970
december



YONEYAMA RACKET

スマッシュ!



NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに　アルミシャフト採用!!

軽い ―― アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて⅓に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い ―― 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

弾む ―― 木製、スチール製に比較して柔軟性、反撥力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。

YONEYAMA

株式会社 ヨネヤマラケット

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。

私のひとこと

【第5回】

努力、ファイト、団結力
国体岩手優勝の意味

村野浩
明大OB
（日本協会用具委員）



私が釜石市の土を踏んだのは八年前。大学一年で、夏期合宿のときだった。

駅に降り立つと、すぐ目の前の富士製鉄工場の煙突からは、さまざまの色合いの煙がもくもくと吐き出され、町全体が煙の中にすっぽり包まれていた。

だが、今度、国体で訪れたこの町は、すっかり様子がちがっていた。

あの煙突からの煙は、オヤというほど少なく、市全体は〝国体ムード〟一色で活気を呈していた。

体育館は「富士製鉄」から「新日本製鉄」と看板の社名が変わり、当時、合宿練習で汗まみれになり「ずいぶん広いなあ」と感心した館内も、国体が始まると、連日、超満員の観客に見下されて「あれ、ここはこんなにせまかったのか」と、二度びっくりするほど。

照明設備も、これまた近代的で、どこから見ても、八年前の同じ体育館とは思えなかった。

時の流れは早い。八年の歳月は、町や体育館を変えただけではないだろう。いや、釜石ばかりではなく、日本のスポーツ環境が、日本の国情が、すばらしい早さで生まれ変わっていたわけだ。

バドミントンも変わった。世界の一流国として、大きくのし上がり、新聞やテレビにも取りあげられるようになり「バドミントン界」のような雑誌まで、出版されている。すべて、私たちが想像もしなかったテンポで動いている。

人も変わる。毎年、国体で顔を合わせる学生時代のライバルや仲間、かっての学生界のスターたち。いやはや、と思うほど太って、プレーにもユーモアが（つまり動きが悪くなったということです）感じられるようになった人も多い。

だが、変わらないものがあるとすれば、それは人の心、バドミントンに、スポーツにかける人々の情熱だろう。

地元・岩手県協会の役員の努力。おそらく選手、観客なにひとつ不満を持つことなく、感謝の気持ちで釜石にサヨナラをつげたことだろう。

一つの仕事に最善をつくすとは、スポーツマンの姿勢そのものであるのだ。こうした努力、熱意が〝スター不在〟にもかかわらず、岩手に優勝をもたらしたのだと思う。

新聞によると、岩手国体は、いわゆる〝ジプシー〟のいない国体であり、それで地元が優勝したのは珍らしいという。

バドミントンを見るかぎり、その話はたしかだ。岩手はファイトと団結力で優勝をかちとったのだ。これが国体の真の姿であり、スポーツだ。暗い話題の多かったスポーツ界に、岩手は明るい灯をともしてくれた。

次先生が登場した。

同先生は「基本のくり返しこそが上達の近道である」との観点から、一線級選手のプレーをモデルに、味わい深い解説を績けていかれる予定。（P27）

今月号のダイジェスト

国体ワイド特集（評、写真グラフ、全記録）　第25回の国体は10月11日から4日間、岩手の釜石で開かれ、地元の岩手が教員の優勝と総合（一般男女、高校男女、教員の合計）優勝を飾った。史上初めてのこと。

本号では〝郷土の栄光〟を背負う国体の詳細をもれなく報道した。とくに写真グラフは熱戦のもようとともに雑観も折り込み、8ページのワイドとした。（P2～8、17～24、36～39）

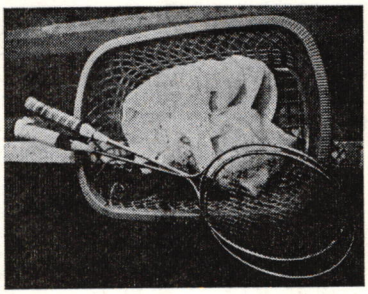
全日本学生選手権　もう一つの大きな競技会は十月末に開かれた全日本学生選手権。東西対抗、個人、団体と分かれたこの大会は、男子は東日本、関東勢が断然強かったが、女子は一年生だけで固めた東大阪勢の進出がものすごく、女子シングルスを除く、各種目であばれまわった。女子シングルスはNO1の湯木が男女を通じて学生史上初めて四連勝（一年から四年）を飾った（P10～14）

技術講座・上級編スタート　一時、休みをいただいていた技術講座で、上級編に学生の雄・中大を長く指導している三須徳

ラケットのシャフトで死亡事件おこる　新潟県下で高校生が練習中、シャフトから先きがグリップからすっぽ抜け、これが他の選手の頭に刺さって、死亡するという痛ましい事故があった。日本協会では、古いラケットなどを使わぬよう、また用具の管理には指導者ともども充分に注意するよう、関係方面に通知した。（P32）

インドネシア遠征決まる　アジア大会の直前、この代表チームに鷲尾（中大）秋本（四条畷高）を加えた一行が、日本のライバルであるインドネシアに遠征する。（P33）

学園祭でバド展　東京神田女学園が、バドミントン普及のため、学園祭で幅広い展示会を開いた。各地でこのような催しが盛んになってきているのはうれしいことだ。（P30～31）



地元・岩手初の総合優勝

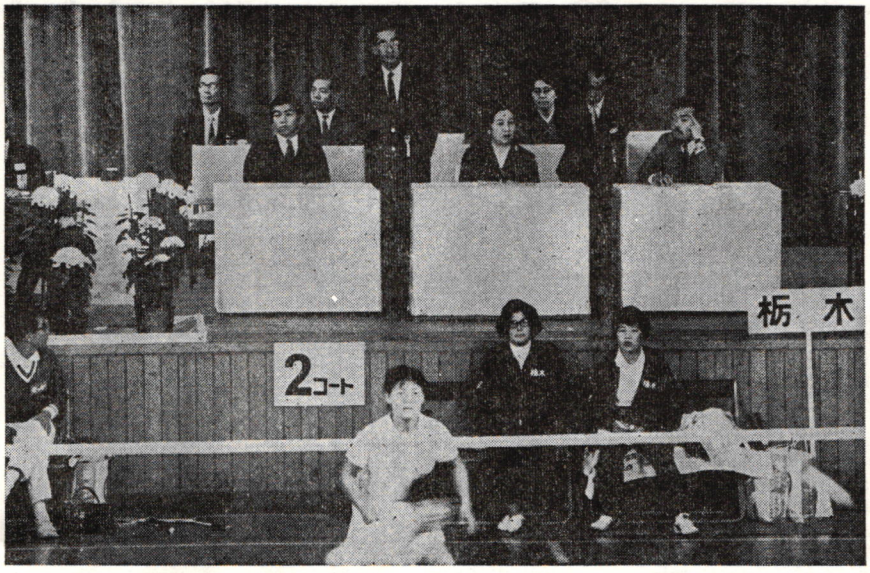
一般女子 新潟が岐阜くだす

第25回国体

第二十五回国民体育大会のバドミントン競技は、十月十一日から四日間、岩手県釜石市の新日鉄釜石の健保体育館で行なわれた。

一般の男、女、高校男、女、教員の五種目に、代表が〝郷土の栄誉〟をかけて争ったが、伏兵とみられた地元の岩手が教員で初優勝したほか、一般男子を除く種目でもムラなく得点し、合計21点で天皇杯一位となり、総合初優勝を飾った。岩手には大会会長のトロフィーが贈られた。

一般男子はベテラン秋山を持つ山梨が三連勝、一般女子はユ杯代表同士が激突したすえ、若い力の新潟（相沢、竹中）が岐阜（高木、天野）をくだし、初優勝。高校男子も奈良が初栄冠に輝き、同女子は大阪が三連勝（四度目）のトップとなった。



▲三笠宮妃殿下と両親王さまもご観戦。ご説明役は森友日本協会副会長（左）と川端理事長

【一般女子】

▼準決勝

岐阜 2―0 栃木

○高木 2(15―8)0 松本
天野 (15―12) 石崎

○高木 2(11―2)0 石崎
(11―0)

技よく力を制した一戦。円熟味を増した岐阜のダブルスは中盤まで冷静に相手を見て展開、二ゲームとも8点から14点までリズムに乗って、一気に得点した。シングルスも高木は全くの完勝。疲労の色濃い石崎は、高木にほんろうされ、第二ゲームはサーブ権を四度握っただけ。

新潟 2―0 秋田

○竹中 2(15―5)0 加賀谷
相沢 (15―0) 田

○相沢 2(11―5)0 鎌田
(11―6)

ダブルスについて秋田の敗因はサービスの高低、及びコースを完全に読まれていたからだ。トス・サービスにしろ、アウトハンド・オブ・サービスにしろモーションをかくすことは、サービスの第一課であったはず。

シングルスは鎌田が第一ゲーム前段、第二ゲーム後段に見せた、相沢のバック・ハンドおよびバック・コートへの丁寧な攻撃が、終始くり返されたなら、面白い展開が得られたかもしれない。

勝利決したスピードとパワー

▼決勝

新潟 2―1 岐阜

○竹中 2(18―15 7―15 1)1 高木
相沢 (15―17 13―11 5―12) 天野

相沢 1(3―11 11―10 11―5 12―2)1 高木○
○竹中 2(11―3 11―4 2―0)0 天野

数ある国体種目のなかで、世界のトップ・レベルが〝雌雄〟を決する決勝は、バドミントンだけではなかったろうか。

山梨三連勝、高度なダブルス見せる

【一般男子】

▼準決勝

東京 2―1 神奈川

○池田 梅野尾 2(15―4 11―8)0 小島 坂本

鈴木 2(4―15 7―15)2 小島○

○梅野尾 2(15―11 15―8)0 坂本

スピードはダブルス必勝の要件。東京のこの基本に忠実な態度が宿願の決勝進出をはたしたといっても過言ではない。

東京はこの試合で初めて梅野尾のパートナーに巧者池田を起用、スピードとパワーで押しまくった。神奈川は第一ゲームで4点を確保したが、以後は戦意を失ない、国体連続四度目の決勝進出をはばまれた。

選手のコート・マナーについていろいろいわれる昨今、敗れてなお、みずから主審に握手を求めて敬意を表し、退場していった小島の国際的な感覚に、さわやかな印象を感じたのは私ひとりではあるまい。

山梨 2―0 岐阜

○窪田 秋山 2(18―15 6―11 15―11)1 池田 梅野尾

野田 0(5―15 9―15)2 鈴木○

○秋山 2(15―6 15―6)0 梅野尾

ダブルスは第一ゲーム、岐阜が好調にスタートして11―5、このまま逃げ切るかに見えた。しかし、この辺から山梨・窪田にエンジンがかかり、サウスポーのクロス・ドライブが対手のボデーあるいはバックハンドを強襲して逆転、セッティング。以後は秋山のたたみかけるような攻撃で一挙に押し切る。

シングルスは森がいつにない見事な試合展開を示し先行したが、連戦の疲れ濃く、しつような野田の食い下りに屈した。

▼決勝

山梨 2―1 東京

・ポイントを二度もつかみながらついに若い力の前に敗れた。

ダブルスを制するものは勝利を制するといわれるように、新潟は優勝した。レシーブ力、中間ボールの処理、攻撃のコースどれをとっても、岐阜に一日の長があったが、勝てなかった。

スピードとパワー。これが女子の試合に占めるウエイトは、ことほどさように大きい。男子とは全く異なる次元での指導方針の確立を望むや切である。

（大会審判長・内藤安雄）

ダブルスは両チームともコチコチにアガって1オール。ファイナルに持ちこまれた。岐阜6―5から、6―10新潟。あわやと思ったが天野のネットぎわの好プレーで11―11となりセッティング。岐阜は17―15とゲーム

①ゲーム展開については東京のパワーとスピードに対し、山梨のコントロール・ショットと予見力②ゲーム内容については東京の水際作戦（ネットのより近くでシャトルを処理）山梨は引きずり込んで叩く作戦③ベンチは山梨の監督が泰然自若としており、東京は堺監督が細心の注意を与え、ゲーム主導権の裏方は監督に？――明暗を分けてダブルスを分析すると、三点の基本的相違があった。

そのどれが勝敗につながったか性急な判断は避けるが、少なくとも②についていえば、

東京の意図したところはダブルスの定石だが、山梨の戦法はその上に卓越したレシーブ力と

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー



ファスト印シャトル
コック製造発売元 有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

勝機への転換が可能な（つまり高さとコースが最適な）返球をマスターしたチームにのみ実践できるものである。

総合戦力が互角な両チームが勝敗を分けねばならなかったのは、定石の上に、さらに積み重ねられねばならない、いくつかの高次元の要件が、あったか、なかったかにかかっていたのである。

（大会審判長・内藤安雄）

女子は大阪が三連勝

男子の奈良は初栄冠

【高校男子】

▼準決勝

石川 2—0 岩手

○銭谷 2（15—5）0 高橋
竹村 佐藤

○青山 2（15—9 10）0 佐藤

奈良 2—0 三重

○異川 2（15—13 12）0 小林井崎

○竹内 2（15—7 12）0 槇野

▼決勝

○異川 2（15—10 3）0 銭谷
竹内 村

○異 2（15 4—12 18—15 16）1 銭谷

【高校女子】

▼準決勝

大阪 2—0 香川

○西尾 2（15 17—4 7—15）1 川東
秋本 森

○西尾 2（11 11—2 7—15）0 川東

栃木 2—0 富山

○小林 2（15—11 6）0 山森
藤井 島田

○藤井 2（11 11—4 5）0 山森

▼決勝

大阪 2—0 栃木

○西尾 2（17 15—14 12）0 小林
秋本 藤井

○西尾 2（11 11—9 7）0 藤井

高校は男女とも、ブロック予選で強豪が姿を消したものもあり、必ずしもインターハイの再現とはならなかったが、結果的に勝敗は順当なところだった。

しかし、国体は出場チーム数が少ないとはいえ、この中で、男子の岩手、女子の富山がベスト4に残ったことは、健斗といってよく、注目された。

男子は、奈良が実力どおりに勝った。奈良のメンバーは正強勢。インターハイでは前年度の優勝校・金沢市工を三回戦でくだし、ベスト4。個人戦でも、ダブルスがベスト4となっている。

正直なところ、三選手とも頭抜けた、というほどではないが、インハイの自信、正確でムダのない試合運び、加えてチームワークのよさですぐれていた。

石川はインハイのシングルス二位・銭谷（大聖寺）が中心だったが、決勝の奈良勢は勢いに乗って気迫に満ち、単複とも銭谷を圧倒した。

女子もインドネシア、アジア大会の代表に加えられた大阪の西尾・秋本（四条畷）が、その自信に支えられ、栃木を圧倒した。

栃木（真岡女）はインターハイで優勝したが、これは多分にチームワークとトレーニングからくる気力のたまものであり、個人技では、栃木にブがなかった。

大阪勢が自己を失ないかけたのは準決勝、対香川のダブルス第二ゲームのときだけ。これ以外は西尾の強打と頭悩的な配球が光っていた。（日本協会常務理事・伊藤鉱一）

岩手、教員でも初めて優勝

【教員男子】

▼準決勝

石川 2—0 岡山

○北方 2（15—6 12）0 三宅
原 柳本

○北方 2（15 13—9 15—14）1 三宅
佐々木 岩手

○彦々木 2（15 7—15—3 15—14）1 芦原工藤
邦 熊本

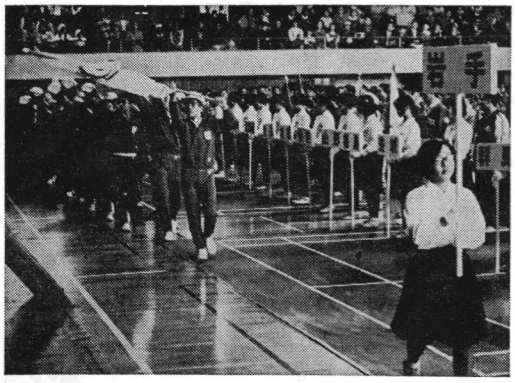


▲地元代表と大会役員のせいぞろい

永　沢　0（7―4―15）2　工　藤○
○佐々木　2（15―11―2）1　芦　原
（15―15―0）

石川×岡山は複で北方・原組のコンビのうまさが相手ペアを上回り、岡山・柳本の調子が戻らぬうちに勝負を決めた。岡山は教職員全日本の優勝ペアだが持ち前のフォーメーションのよさを発揮できずに終わった。

シングルスは最初の二ゲームとも追いつ追われつの壮絶な展開。しかし第二ゲーム14オールのセッティングから、バックハンドにやや正確さのある北方がとり、その自信をファイナルに結びつけ、石川の勝利が決まった。



▲開始式で、しんがりから堂々入場する岩手。

岩手×熊本戦。熊本は全日本教職員四連勝、岩手は地元の面目にかけても雪辱しようと闘志に燃え、会場の声援もそれに油を注ぐごとくにぎやか。

複の熊本は、今夏の対戦でストレート勝ちしているせいか、積極的な攻撃をせず、受け身の熊勢。岩手の両佐々木組は逆に果敢な攻撃をしかけて相手のレシーブ・ミスを誘い、先制点に成功した。

第一単は教員NO1工藤が楽勝、勝負は最終試合に持ち込まれた。第一ゲームは芦原の沈着さが功を奏し、はやりぎみの佐々木をうまくさばいた。

しかし第二ゲーム以降は佐々木が猛然と反撃、相手に乗ずるスキを全く与えず、ワンサイドで圧勝した。

【お断わり】　三位決定戦は紙面のつごうにより省略しました。全記録は巻末のレコード欄に収録してあります。

なお、本欄の写真三枚は地元・岩手県協会から提供していただいたものです。

ご協力を紙ナから感謝いたします。

▼決　勝
岩　手　2―1　石　川
佐々木
○佐々木　2（15―8）0　北　方
（15―13）0　原
彦

永　沢　0（12―11―15）2　北　方○
○佐々木　2（15―10）0　原
邦　（15―9）

熊本の国体三連勝を阻止した岩手は勢いに乗って石川をも破り初優勝を果たした。岩手は夏の全日本で石川をくだしており地元の利と合わせ自信に満ちていた。

ダブルスは岩手が最初から、無理とも思われる玉砕戦法で敢然と攻撃した。レシーブに定評ある北方は、これを巧みにかわしたが、フォーメーションが昨年よりやや悪い。

第二ゲームは、それでも1点を争う白熱した展開となった。14―13と岩手が追いつかれたときは場内騒然となって応援、岩手、危く逃げ切った。

第一シングルスを石川がとり勝負はまたもファイナルへ。佐々木邦×原は実力互角の予想だったが、原に疲れが見え、佐々木優位のペースを守り切って勝った。この種別優勝が岩手に総合優勝をもたらした。このエネルギーをいつまでも持ち続けてほしい。（日本協会常務理事・岡村英男）



地元の反省あれこれ

岩手県協会常務理事
川村仙二

はしなくも我々の機関誌「バドミントン界」より寄稿を依頼され、私の感じたままにペンを走らせます。全国より参加された数多くの役員、選手の方々には、それなりの見解があられることと思いますが、いわば「自評」というべきもので時には甘い評価もあると思いますので、その意味でお許しをたまわりたく、あらかじめ申し上げます。

私達は岩手国体が内定してから今日あるを予測して、数年前から先輩県の運営面を研究し、学習して岩手国体を編成しました。しかし、理想と現実は厳しく全ての面について再三計画の変更を止むなくされ、特に全県の組織機構と人間関係、何事につけても予算措置については殊の他苦労をしました。

そして、理事長はじめ小生を除く若い役員は自分の職場を守りつつも寝食、家庭を投げても自費で行動することが再三で、このことについては先輩県よりも聞いて覚悟はしていたものの想像以上のことでありました。

地元で開催するからには是非とも入賞出来るようにと選手強化には最も腐心しました。その効果が遅々として現われず、時には悲観的意見も出るなど混乱しましたが今年に入ってがむしゃらなまでに選手強化に取り組みました。

選手も良く頑張ってくれました。それだけに夢想だにしなかった天皇杯を手にした時の感激は、生涯忘れられないものであり、ここに紙面を借りて永年詳細にわたってあらゆる点に懇切丁寧に指導下さった先輩県ならびに日本バドミントン協会の方々のご指導とご高配に対し心から感謝申し上げるしだいです。

さて、競技運営を中心に少々具体的に反省してみますと、まず第一に役員の養成が大変でした。県内大会、実業団、社会人等の大会はもちろん、機会あるごとに養成しました。

なかんずく審判については大会期間中、ミスらしいこともなく、最終日、一度宣言した判定の取り消しをめぐっての試合中断が一件あったのみで審判は90点以上の評点を戴けるものと思いますし、さらに線審については判定、熊度等、初日から私のところへわざわざいいに来られる他県の役員、選手がありましたほどで、文句なしに100点を戴けると確信しております。

ただし内部の問題として審判記録用紙の記入法が複雑であり本部協会に対して統一記録用紙考案の件をお願いしましたし、ついでに競技進行促進のために勝敗決定後の選手変更はあらかじめオーダー提出時に記入するよう単2の下欄にその欄を設けることも提案しておきました。

先輩県からの指導に感謝

われわれは誠実だったろうか

審判、照明には自信

次に審判、線審だけでも約九十名もおり、運営上ネームプレートを着用したことは大変便利であり、かつ本人の自律的行動促進にも大いに役立ちましたが選手集合所が狭くて混雑しましたのでもっと広い場所を選定すること、コート主任はネームプレートだけではよくわからないので当初から大きな腕章を用意すべきでした。

進行記録については選手集合が一部遅滞する時もあり、コート入場が遅れ競技が長引くことがありましたので、試合予定時間、十分前集合ではなく十五～二十分前とすべきでした。また競技日程はもっと検討して編成し、更に一試合の予定時間を九十分ではなく百十分ぐらいにすべきでありました。

会場の照明は色々と工夫した結果あのようなものが完成しましたが、ネット上で三百五十ルックスは確保されましたものの電球の寿命が短く心配されました。毎日試合終了後に点検して数箇ずつ取り換え経費もかさみましたが選手の皆さんには気持ちのよいゲームをして戴いたものと思います。

このような照明器具は本部協会で備品として各種大会に貸し出しをするようにしたら開催地では助かることと思います。

次にフォーバーコートでありますが、コートの寸法を規格に合わせるために散々苦労をしました。もっと簡単に施設できるものが考案されることを望みます。さらに記録の整理、報道、掲示はまあまあと思いますが記録整理の場所が予想より大きくしなければならなかったこと、印刷機はコピー機械も設置しておけばよかったこと、前の試合結果表示の電光板はもっと工夫すればよかったこと、場内アナウンスは事務的ではなく、もっと柔い表現をすればよかったことがあげられます。

その他、練習会場が遠距離であったり、古く、狭く、汚れている上に暗かったり、練習会場道案内や更衣室の使用に支障を生じたり種々ご迷惑をおかけしました。また観衆のマナーについても指導が徹底されぬ面もあり、私達から見ても数々の不備が指摘されましたものの、先輩各県同様に私達も誠心誠意国体を成功させるために全力を傾注した心づもりであります。

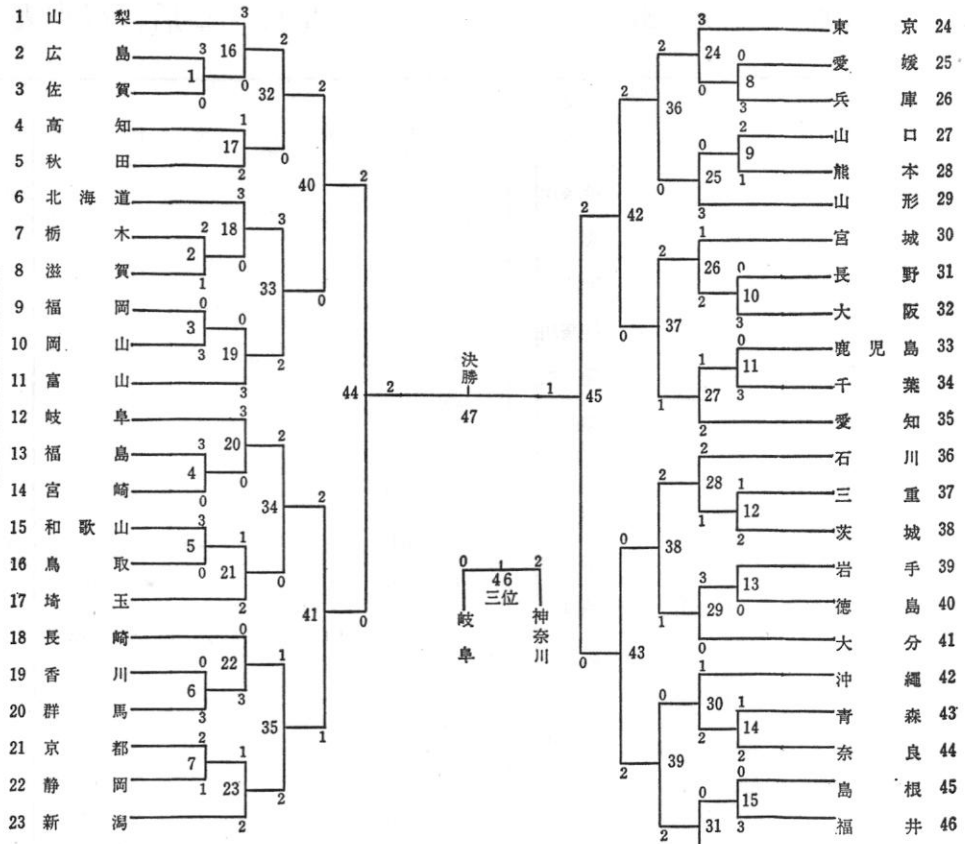
私達は運営面においても天皇杯を獲得したのではないかと自負しておりますが、実際にご体験なされた各県の役員、選手の皆さんは私達に果して何点の評価を与えて下さるでしょうか。

参加された役員、選手の皆さん、果して岩手国体のスローガン通り、競技、報道、宿泊、接伴、輸送等々、あらゆる点について私達は「誠実」であったでしょうか。ご意見等を賜れば幸いに存じます。

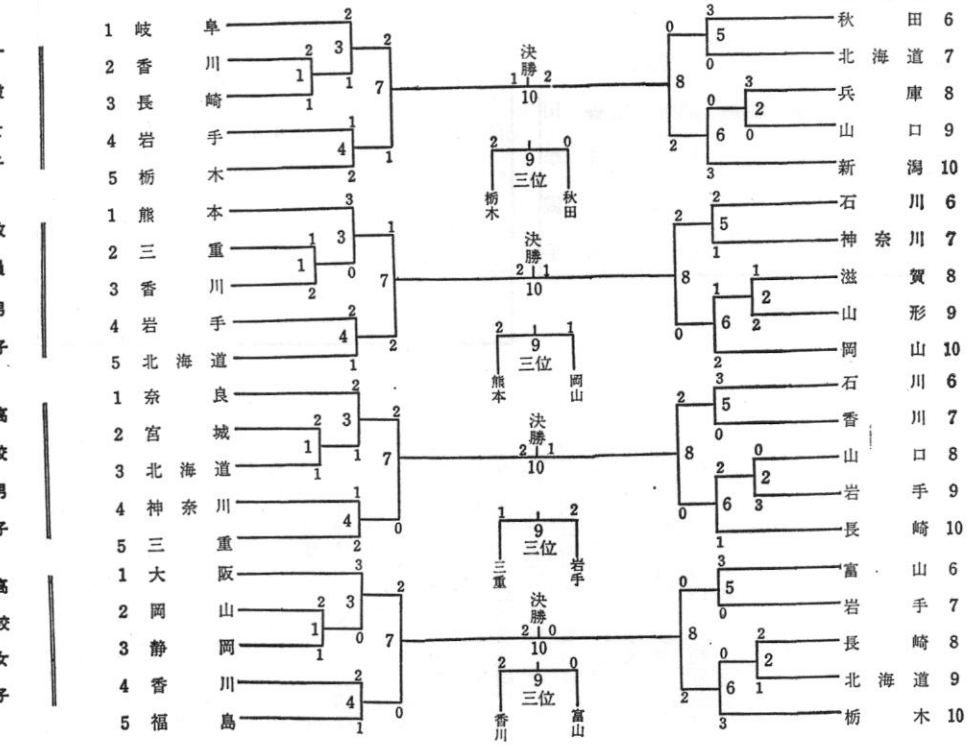
筆者住所 〒〇二〇
岩手県盛岡市加賀野町三丁目十五―三 （大会副審判長）

成績一覧表

一般男子



一般女子



教員男子

高校男子

高校女子

国体歴代優勝記録

種別 回	一般男子	一般女子	高校男子	高校女子	教員男子	総合
5	東京	神奈川	北海道	／	／	神奈川
6	東京	愛知	愛知	／	／	愛知
7	神奈川	石川	東京	兵庫	／	神奈川
8	神奈川	神奈川	北海道	宮城	／	神奈川
9	岐阜	宮城	愛知	福島	／	愛知
10	神奈川	福島	東京	岡山	／	神奈川
11	神奈川	宮城	神奈川	香川	／	岡山
12	神奈川	香川	神奈川	香川	／	神奈川
13	東京	香川	山形	香川	／	東京
14	神奈川	神奈川	宮城	香川	神奈川	神奈川
15	東京	富山	神奈川	富山	石川	富山
16	東京	富山	新潟	山形	石川	秋田
17	東京	香川	新潟	富山	石川	富山 東京
18	愛知	秋田	新潟	栃木	石川	新潟
19	愛知	香川	新潟	栃木	新潟	新潟
20	愛知	岐阜	富山	大阪	石川	岐阜
21	愛知	岐阜	新潟	山形	北海道	新潟
22	愛知	香川	富山	新潟	富山	香川
23	山梨	岐阜	富山	大阪	熊本	岐阜
24	山梨	岐阜	新潟	大阪	熊本	新潟
25	山梨	新潟	奈良	大阪	岩手	岩手

天皇杯・皇后杯得点表

種別 県名	天皇杯 一般男子	一般女子	教員男子	高校男子	高校女子	合計	順位	皇后杯 合計	順位
北海道	／	2.5	2.5	／	／	5.0		2.5	
宮城	／	／	／	2.5	／	2.5			
秋田	／	5.0	／	／	／	5.0		5.0	⑥
山形	／	／	2.5	／	／	2.5			
福島	／	／	／	／	2.5	2.5		2.5	
栃木	／	6.0	／	／	7.0	13.0	④	13.0	①
東京	7.0	／	／	／	／	7.0			
神奈川	6.0	／	2.5	2.5	／	11.0	⑧		
山梨	10.0	／	／	／	／	10.0			
新潟	2.5	10.0	／	／	／	12.5	⑤	10.0	②
富山	2.5	／	／	／	5.0	7.5		5.0	⑥
石川	2.5	／	7.0	7.0	／	16.5	②		
三重	／	／	／	2.5	／	2.5			
岐阜	5.0	7.0	／	／	／	12.0	⑦	7.0	⑤
大阪	2.5	／	／	／	10.0	12.5	⑤	10.0	②
兵庫	／	2.5	／	／	／	2.5		2.5	
奈良	／	／	／	10.0	／	10.0			
岡山	／	／	5.0	／	2.5	7.5		2.5	
香川	／	2.5	2.5	2.5	6.0	13.5	③	8.5	④
長崎	／	／	／	2.5	2.5	5.0		2.5	
熊本	／	／	6.0	／	／	6.0			
岩手	／	2.5	10.0	6.0	2.5	21.0	①	5.0	⑥

◆国体とは◆

国体は、正式には国民体育大会という。

終戦直後の混乱期に、陸上などを中心とする体協（日本体育協会）やスポーツ関係者が「敗戦のショックから国民を立ち上がらせ、国を再建するにはスポーツが一番」と相談して始められた。

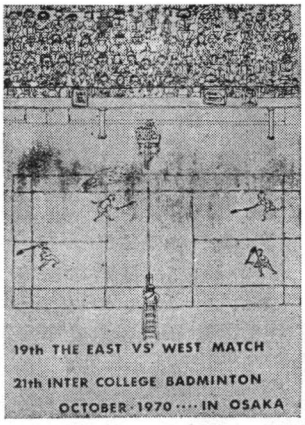
昭和二十一年以来、地方ブロック、府県持ちまわりで、今回は二十五回目を数える。最初は秋季大会だけだったが、現在は冬季（スキー、スケート）夏季（水泳、ボート、ヨット）秋季（その他の競技）と分かれ、三大会を通算して最高の成績を収めた都道府県に天皇杯、そのうち女子種目得点で最高の都道府県に皇后杯が与えられる。

バドミントンは秋季大会種目で、第五回大会から参加を認められた。各競技内での種別分けは、競技の特殊性、普及度などによって決められており、バドミントンでは一般男子、女子、高校男子、女子、教員男子の五種。このうち一般男子だけは沖縄をふくむ47都道府県が一チームずつ出られるが、他は九ブロックの代表と開催県しか選手を出せない。

kawasaki racket

ラケットの名門カワサキ——
長い歴史と抜群の技術は世界が認めるところ、にぎった瞬間にわかるバランスのよさ、その確かな手ごたえ……もちろんチャンピオンも使っています。





インカレのプログラム表紙
43年度関西学連委員長・八木昌晴氏デザイン

〝新興パワー〟東大阪が初優勝飾る

女子団体

全日本学生選手権大会

男子は中大、順当に五度目の栄冠

第二十一回全日本学生選手権大会は、東西対抗に続き十月二十六日から三十一日まで大阪の市立中央体育館で行なわれた。

前半の団体戦は男子三十四、女子十三校が参加した。男子は実力ナンバーワンの中央大学が日大をくだし、二連勝、五度目の優勝をとげた。女子は一年生だけで固めた東大阪短大勢が準決勝で本命の日女体大を、決勝では日体大を破り、初の栄冠をものにした。

個人戦男子は、シングルス三連勝ねらう本間（中大）が決勝でけいれんを起して途中棄権、粘りで定評ある杉山（日大）が初優勝を手にした。しかし、本間は鷲尾と組んだダブルスでは文句なく初タイトルをとった。

女子のシングルスは湯木（日女体）が予想どおり勝ち、一年生のときから四年連続優勝という、史上初の金字塔を打ち立てた。ダブルスは東大阪の柴山・高崎組が湯木・本間組をくだして初優勝した。

◆男子団体戦

▼準決勝

中大3（複2—0）1日大
（単1—1）
（複2—0）

法大3（単1—0）0早大
（複2—0）

▼三位決定戦

日大3（単2—1）2早大
（複1—1）

中大3（単2—1）1法大
（複2—0）

▼決勝

中大3（複2—0）1日大
（単1—1）

○今泉 2（15—15 15—8 15—3）1牧野 杉山
○本間 2（15—15 11—0）0遠藤 井藤
鷲尾

今泉 1（12 10—15 18—15 15—5）2杉山○
○本間 2（15—3 15—5）0涌井
鷲尾（打切り）遠藤

男子団体戦決勝は、昨年度優勝の中央大学と前日の準決勝で早稲田大学を接戦の末くだした日本大学の対戦となった。まず中大の今泉・岩下、日大の杉山・牧野で先発。東日本一位の今泉・岩下が第一ゲームを先取、第二ゲーム関東選手権で今泉・岩下を破り優勝した実績を持つ杉山組が攻撃に冴え、後半ミスの多くなった中大組を攻め、フアイナルに持ち込んだ。第三ゲーム最初から今泉・岩下が自己のペースでとばし、一気に大きくリードし、そのまま押し切った。

続く本間・鷲尾対遠藤・涌井の試合は第一ゲーム、第二ゲームとも力の勝る本間・鷲尾がストレートでとり中大は早くも2ポイントをあげた。

シングルスでは一番手に今泉と杉山が対した。フットワークの良い今泉と、切れのいいスマッシュ、粘りのある杉山とあって最初から迫力のある接戦が続き、ファイナルの末、杉山の粘りで日大の貴重な1ポイント獲得となった。しかし、本間と涌井はトマス・カップ代表、全米選手権優勝の本間が第一、第二ゲームとも涌井をよせつけず大きく引き離して勝ち、中大に二年連続五度目の優勝をもたらした。（学連・秋山正文）

◆女子団体戦

▼準決勝

東大阪短大3（単2—1）2日女体大
（複1—1）

日体大3（単2—1）2青学大
（複1—1）

▼三位決定戦

日女体大3（単1—0）0青学大
（複2—0）

▼決勝

東大阪短大3（複2—0）1日体大
（単1—1）

○石及 川崎 2（15—7 7—0）0広沢 中村
○石崎 2（11 11—6 8—0）0小片
○柴山 2（12 11—10 4—0）0堀川
高崎（打切り）横尾

女子団体決勝は準決で宿敵青山学院を破った日体大と、優勝候補の筆頭、日女体大に勝ち、初めて決勝進出した東大阪短大の間で争われた。

第一ダブルス、小片・堀川組と柴山・高崎組の対戦は小片・堀川組が安定したコンビネーションを見せ、日女体大戦で湯木

・本間組を破り好調の柴山・高崎組を、接戦ながらもストレートで降した。

第二ダブルス、広沢・中村組×石崎・及川組は石崎組の攻撃力が勝利を決めダブルスで1対1。シングルスのトップ、日体大の小片にダブルスから連続しての石崎が対戦、ダブルスから余裕のある石崎は疲れを見せず、反対に粘りのなくなった不調の小片を、ストレートで破った。

優勝まであと1ポンイトと迫った東大阪は、エース柴山の登場。対する日体大・堀川となった。柴山はうまみのある試合運びで第一ゲームをとり、第二ゲームも9点を先取。その後、堀川も豪快な攻撃で追いつきセッティングに入った。しかし、堀川の迫力あるプレーに対し、柴山は軽快なフットワーク、巧みな球さばきで、第二ゲームもとり、東大阪短大の初優勝が成った。（学連・秋山正文）



▶女子ダブルスで優勝、表彰を受ける柴山組（右）と三位の小山組

杉山（日大）が王座に

男子単

本間は決勝で不覚のけいれん

▽▽個人戦△△

◆男子シングルス

▼五回戦　本間（中大）2―0滝野（法大）、杉本（早大）2―0宮川（関東学院）、遠藤（日大）2―0笠井（青学）、今井（早大）2―0門間（日体大）、杉山2―1鷲尾（中大）、谷口（立大）2―0二上（早大）、木戸（日体大）2―1笠井（法大）、今泉（中大）2―1草島（法大）

▼準々決勝

本間 2（15―1）0 杉本
遠藤 2（15―5）11 0 今井
杉山 2（15―9）3 0 谷口
今泉 2（15―2）3 0 木戸

▼準決勝

本間 2（15―8）3 0 遠藤
杉山 2（15―9）11 0 今泉

▼三位決定戦

今泉 2（15 15―11 5）0 遠藤

▼決勝

杉山 2（11 15 13―5 12 18）1 本間

準決勝で本間対遠藤、杉山対今泉のの対戦となった。本間は遠藤に楽勝し、このところ毎回、好勝負を展開している杉山対今泉は、杉山にほとんどミスが出ず、結局二ゲームで杉山が勝った。

そして決勝ではレシーブの良い杉山が本間をかき回し一ゲーム目はセッティングで敗れはしたが、二ゲーム目も同じ様な試合を展開し、あまり速くはないがコースの良いスマッシュを打って、ミスの少ない本間にミスを連発させ、このゲームを取った。

ファイナル・ゲームではあせりの見えてきた本間が、最初からめずらしくスマッシュを多発し、凡ミスをくり返して杉山が前半を折り返した。そして11―5の時、杉山のドロップを取りに行った本間は両足にけいれんをおこして棄権した。

最近にない好試合だっただけに、最後までやって欲しかったが、結局杉山のスタミナとレシーブ力の勝利といった所かも知れない。

（学連・菅原元）

本間、ダブルスの王座は握る

◆男子ダブルス

▼準々決勝

本間 鷲尾（中大） 2（15 9―15 15―6 15 7）1 遠藤 村谷（日大）
杉山 牧野（日大） 2（15 15―9 9―6 15 15）1 笠井 滝野（法大）
今泉 二上（早大） 0（10 15―2 15―8 9 15）1 草島 所田（法大）

▼準決勝

本間 鷲尾 2（15―9）5 0 杉山 牧野
門戸 木門（日体大） 2（18 15―14 11 15）1 武岡 佐倉（早大）

▼三位決定戦

本間 鷲尾 2（15―7）15 0 草島 所田
門戸 木門 2（17 8―14 15 12）1 杉山 牧野



▶男子ダブルス決勝、本間（左）と鷲尾

▼決　勝

本間・鷲尾組 2（15―5、15―9）0 草島・田所組

昨年度準決勝優勝の本間・鷲尾組対若手ダブルスで進境著しい草島・田所組の決勝戦は、本間・鷲尾組が一ゲーム貫禄勝ちといったような落ち着いたプレーで終始圧倒し、二ゲーム目も前半リードされはしたが、相手のスマッシュに威力がなくなり、凡ミスを繰り返したのに乗じて逆転し、その後は一ポイントもやらず15―9で堂々たる初優勝を飾った。

草島・田所組は調子に乗ればぐいぐいと押してはくるが、やはり荒さはぬぐい切れず、丁度そこをつかれた感じで、手もなく敗れ去ったという具合のゲーム展開であった。

（学連・桐竹賢）

湯木が前人未踏の〝4連勝〟達成

女子シングルス

ベスト4の三人まで東大阪勢

◆女子シングルス

▼三回戦　湯木（日女体）2―0河内（武庫川）、及川（東大阪）2―0高橋（青学大）、谷沢（日女体）2―1高崎（東大阪）、小片（日体大）2―0保坂（日女体）、浦口（日女体）2―0西村（熊本女）、柴山（東大阪）2―1堀川（日体女）、石崎（東大阪）2―1本間（日女体）、高坂（青学大）2―0池尻（日女体）

▼準々決勝

湯木 2（11―4）0 及川

高崎 2（12―10、11―11、11―1）1 小片

柴山 2（11―4、11―5）0 浦口

石崎 2（11―5、5―11、11―6）0 高坂

▼準決勝

湯木 2（11―2、11―5）0 高崎

柴山 2（11―2、11―4）0 石崎

▼三位決定戦

高崎 2（11―4、11―6）0 石崎

▼決　勝

湯木 2（11―9、11―6）0 柴山

これを征すれば東大阪の完全優勝がなる。ベスト4には東大阪勢三人が入った。湯木は高崎をうまくかわし、柴山は第一ゲームは石崎に先行され苦戦したが、第二ゲームは軽く勝ち決勝に進出した。

もう一つ持ち前のパワーがみられない湯木、好調でしかもインカレ完全優勝の夢をつなぐ柴山との決勝戦は、柴山の地元ということもあって観衆の緊張した空気の中で始まった。

第一ゲームは7オールまで一進一退を続け、湯木が2点離し、これで引き離すかにみえた。柴山もその正確なレシーブとコースをついたクリアーでよく追いついたが柴山もここまで。第二ゲーム湯木は終始自分のペースで進め、試合をきめた。湯木はうまくスマッシュ、カットを使い、自分のコンディションもみきわめた慎重な戦いぶりで、前人未踏の四連勝を成し遂げた。

（学連・久松公夫）

柴山組がダブルスで初栄冠

◆女子ダブルス

▼準々決勝

湯本・木間（日女体）2（15―1、2―15）0 加藤・柿崎（東女体）

浦口・谷沢（日女体）2（15―9、7―15）0 石川・及崎（東女体）

高崎 2(15—8)0 高坂
柴山(東大阪) 2(15—8)0 漆畑(青学)
小山 2(15—13)0 宮合本(日女体)
高橋(青学) 2(15—3)0 落合本

▼準決勝
湯木間 2(15—1 3)0 浦口
高柴崎 2(15—9)0 小山
2(15—5)0 高橋

▼三位決定戦
小山 2(15 11—2 15)1 浦口
高橋 2(15 11—10)1 谷沢

▼決勝
高柴崎 2(15—12 7)0 湯木間

準決勝は湯木・本間組×浦口・谷沢組という日女体大同士の争いとなった。

結局、ダブルス歴の長い湯木・本間組にくらべコンビネーションの良くない浦口・谷沢組が同じ大学で相手の手の内がわかっているということで、湯木・本間組が浦口・谷沢組のミスをさそい出して、一ゲーム目15—3できめ、二ゲーム目もわずかに1本をゆるしたにすぎず、大差をもって湯木・本間組が勝利を得た。

決勝は東大阪短大の柴山・高崎組と日女体大の湯木・本間組との間で争われた。先頃の東西対抗でもはっきりと成長ぶりがうかがわれた柴山・高崎組がすばやいコンビネーションをもって、一ゲーム目逆転して15—7と湯木・本間組をおさえ、二ゲーム目も前半リードされたのをくつ返し、相手側のミスをうまくとらえ、着実に点を重ねてゆき、とうとう15—12と2—0で柴山・高崎組が湯木・本間組をしりぞけ優勝した。

（学連・鈴木信夫）



▲女子単の王座を争った湯木（下）と柴山▼



総評

多かった判定のトラブル
審判に望まれる責任と自信

大会総務委員長
菊地利明
（日本協会学連担当）

女子は関西、男子は関東勢という試合の展開になったが、団体戦において女子の参加の少ないのが残念だった。

その中でも東大阪短大のがんばりが目立っており、準決勝では強敵日女体大を相手に、練習で身につけた実力を充分に発揮して、3—2と破り、みごとな優勝を遂げたものであった。

男子では中大の力が他に一段と差をつけた試合ぶりで、優勝をしたが、反対ヤマの日大も杉山主将を中心に、苦戦ながらも決勝戦に進出、コート内を走り回ったファイトある試合が印象的であった。

個人戦に移って、女子では団体戦に引続いて東大阪短大勢が勝ち残り、単・複共に決勝に進出して、よく健闘、単では、湯木の四年連続優勝は許したものの、力一杯の試合振りは、日頃の練習成果の表われであると思う。

男子単は準決勝、日大（遠藤）対中央（本間）と日大（杉山）対中央（今泉）の団体戦の決勝戦と同じ組合せになった。杉山、本間ともに決勝に進出し、決勝戦は最近にない好試合となり一進一退で進んだ。三ゲーム目の11—5の時に、本間が両足けいれんを起して棄権、杉山の優勝となったのは好試合の最中であっただけに惜しまれるが、杉山を中心とした日大選手のよく走り込んだ結果が数多いゲームを進めてこれら優勝に結びついたものと思う。

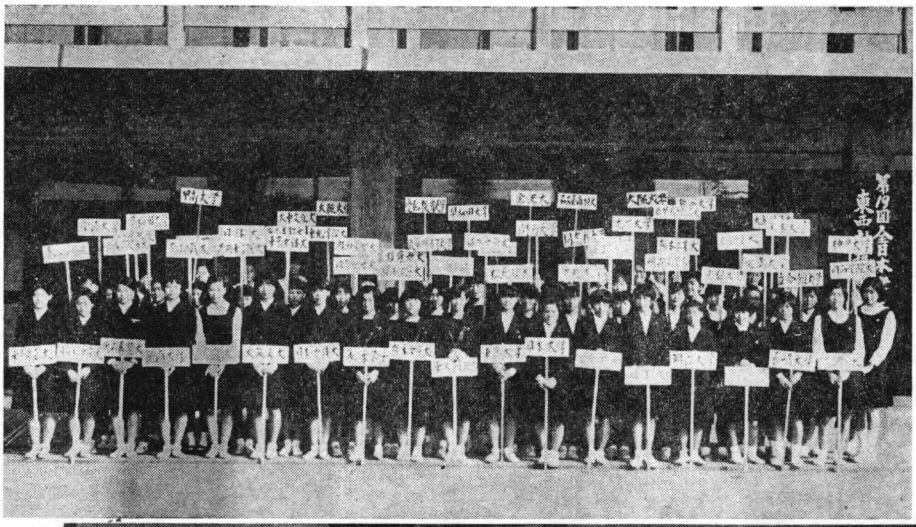
高校第一線選手の多くが東京の大学に進学するという事情のために、関西男子のレベル向上が進みにくいのは、残念なことだが、その中で東西対抗では植田（近大）が谷口をくだしたのが光った。

なお、大会を通じて審判と選手のトラブルが目についたが、ラインを境としたアウト、インのトラブルが多かった。

線審は特に体を動かしてよく見きわめる努力をしなければならないのではないかと思う。審判長が試合開始時に種々注意をしていたが、責任と自信をもったジャッジをこれから身につける必要ありと感じた。

東軍、総合と男子で15連勝

女子は西軍（東大阪）が雪辱





▶東西対抗、東軍のベンチ
▲会場に勢ぞろいの参加校プラカード

第十九回東西対抗は、全日本学生選手権に先き立つ十月二十五日、大阪市立中央体育館で行なわれた。

男子は予想どおり東軍が圧倒的に強く、シングルスのトップで谷口（立大）が植田（近大）に敗れたほかは順当に勝ち、8―1で勝利を握った。これで男子は第四回を除き15連勝、18度目の優勝。

女子は東大阪短大勢で固めた西軍が健斗し、ダブルスは分けたが、第二、第三シングルスをとって3―2で勝ち、前年の雪辱をとげた。西軍女子の王座はこれで八度目。

この結果、男女の総合ポイントでは東軍が10―4で勝ち、東軍は第五回以来15連勝、18度目の栄冠獲得となった。

■東西対抗戦■

◆男　子

東　軍　8（単5―1　複3―0）1　西　軍

▼シングルス

谷口（立大）1　4　10　15―15　15　11　2　植田（近大）
鷲尾（中大）2　15　15―3　2　0　高木（岡山）
笠井（法大）2　15　18　3―0　15　15　1　山口（近大）

▼ダブルス

杉山牧野（日大）2　15―10　8　0　米宮（同大）納崎
尾崎小泉（中大）2　15―8　4　0　中西岩田（近大）
今泉岩下（中大）2　15　11　15―9　15　9　1　山口植田（近大）

▼シングルス

山並（東北学）2　15―4　12　0　小林（関大）
本間（中大）2　15―9　10　0　池本（近大）
遠藤（日大）2　15―3　9　0　岩田（近大）

◆女　子

西　軍　3（単2―1　複1―1）2　東　軍

▼ダブルス

柴山高崎（東大阪）1　17　15―18　3　5　15　2　浦口本間（日女体）
石崎及川（東大阪）2　15　15―7　15　10　17　1　小堀片川（日体）

▼シングルス

石崎（東大阪）0　2　8―1　11　11　2　高坂（青学）
柴山（東大阪）2　11　12―1　11　10　0　谷沢（日女体）
高崎（東大阪）2　11　11―4　4　4　0　高橋（青学）



"やる気"がすべてを解決する

デートも練習の犠牲になった日々

読切連載【第12回】

KK不二越（富山）勤務

毛利桂子

（旧姓・栂野尾、第四回アジア大会代表）

何よりも好きだったバドミントンをやめて、もうどのくらいたったでしょう。

それにしても、雨の日も風の日も、一日として練習を休んだことのない私にしたのは……。

私の母校・不動中学は生徒数も少なく小さな学校でしたが、体操とバドミントンが優秀で、郡体はもちろん、県体までいって、良い成績をおさめていました。

中学一年の終りのある日、友達のラケットを借りて打ってみると、意外に見ているより面白く、すすめられるままに入部しました。そして、その翌年の郡体で、三年生を破り優勝してしまいました。どうもそれからというもの、バドミントンのとりこになってしまったようです。

でも私の場合、コーチや練習相手に恵まれず、大分、苦労しました。上市高校の時は村井先生がよく、相手をして下さったり指導して下さいました。本当に心に残る思い出です。日に4㌔は必ず走ったり、練習をしに遠くまで行ったり、日が暗くならなければ帰らなかったものです。

そのかいあってか、第四回アジア大会に出場出来たことは私にとって、最も意義あるものとなりました。初の海外遠征とあってアガりぎみの私達で、負けはしましたが、皆どの国とも大差ないとわかったことが、次回の足掛りとなったようです。

その頃、弟（本年度ア大会代表・昌一選手）も中学の県体で優勝していたようです。よく人は、弟さんに教えてあげたのでしょう等、といいますが、別に「バドをやれ」等とは一度もいいませんでした。学校も小さいし、自然に、バドミントンをやるムードになって行ったようです。本格的にやるようになってから、少しはアドバイスをしましたが、それは試合の後の批判や、反省ばかりです。

最近のプレーヤーは、コーチや練習相手にこと欠かないし、環境が良くなってきたし、本当に幸せなことだと思います。ただ、それが当り前になって、環境に甘え、プレーもだれのための練習かわからないような場合があるのではないでしょうか。

その頃の私は、授業が終ると体育館へ行くのが決まりでした。まず走ることです。走り終るとフットワーク等々。エネルギーの三分の二は、ラケットを持たないうちについやしてしまい、ラケットを持つ時は、より以上の努力が必要になって来るわけです。そんな練習のせいか、試合などで辛いと思ったことはないくらいです。

栄光への近道があるとすれば地道な一歩一歩の積み重ねでなしうるものだと思うのです。

勉強にさしつかえるから練習しない、などはやる気がないから出来ないのであって、スポーツばかりではなく、広く世間に出てからも、一心に目的に向ってまい進すること、そして、目的を果すのがスポーツマンのゆえんだと思います。

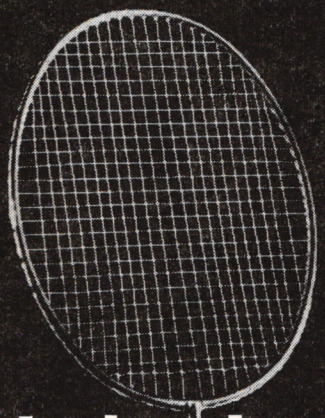
それにまた私の場合、バドが三度の御飯よりも好きだったということです。コーチもいない、相手もいない、それでもやる、それでも行く、たまに、デートの誘いがあっても、それにさえかえがたく思うほどにバドミントンが好きだったことです。

しかし、今はもう年に二度程度の社内大会に出るほかは、ラケットを握ることもありません。でも弟の試合や、大きい大会等は新聞等を通して知っております。

いつまでたっても、やっぱり私はバドミントンが好きです。



▲第4回アジア大会で。左端が毛利選手



世界選手権に輝やく

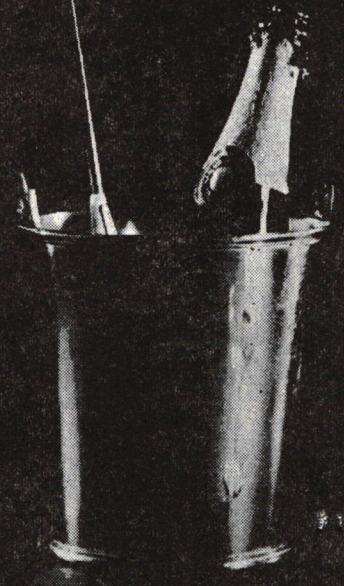
CARLTON
SHUTTLECOCKS

ラケット

値下断行!!

THE light-HEADED RACKETS

Game coming up? Then celebrate it light-heartedly-with a new Carlton!



MATCH IT WITH THE SUPERB
CARLTON INTERNATIONAL SHUTTLE

Made from crisp nylon, with perfect turnover at the net and correct speed in the smash.



CARLTON PUT THOUGHT INTO SPORT.

株式会社 発売元

メトロ

東京都千代田区外神田5－6－4
☎（03）833－3661（代）
大阪市南区長堀橋筋1－32
☎（06）251－0516

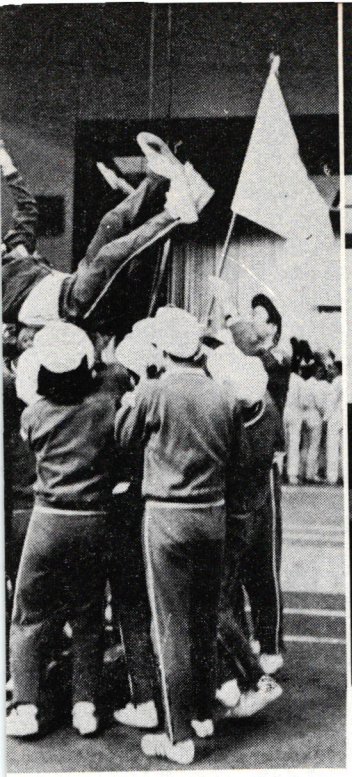
郷土の栄光をかけて

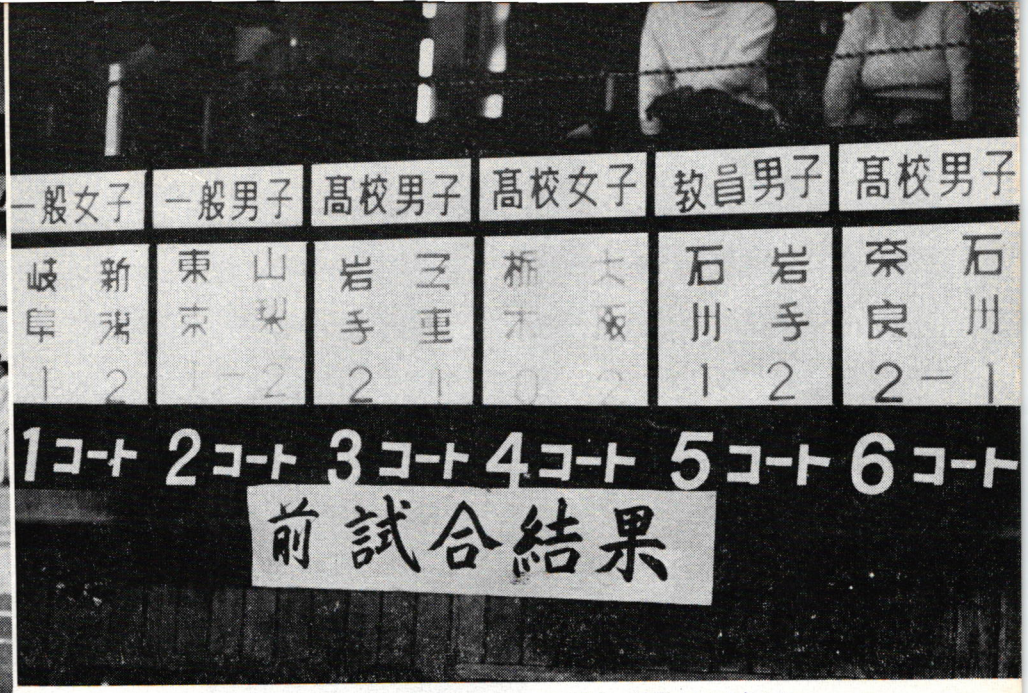
第25回国体グラフ特集

2



晴れの大会会長トロフィは、初めて男女総合に優勝を飾った地元・岩手県の手に渡った。





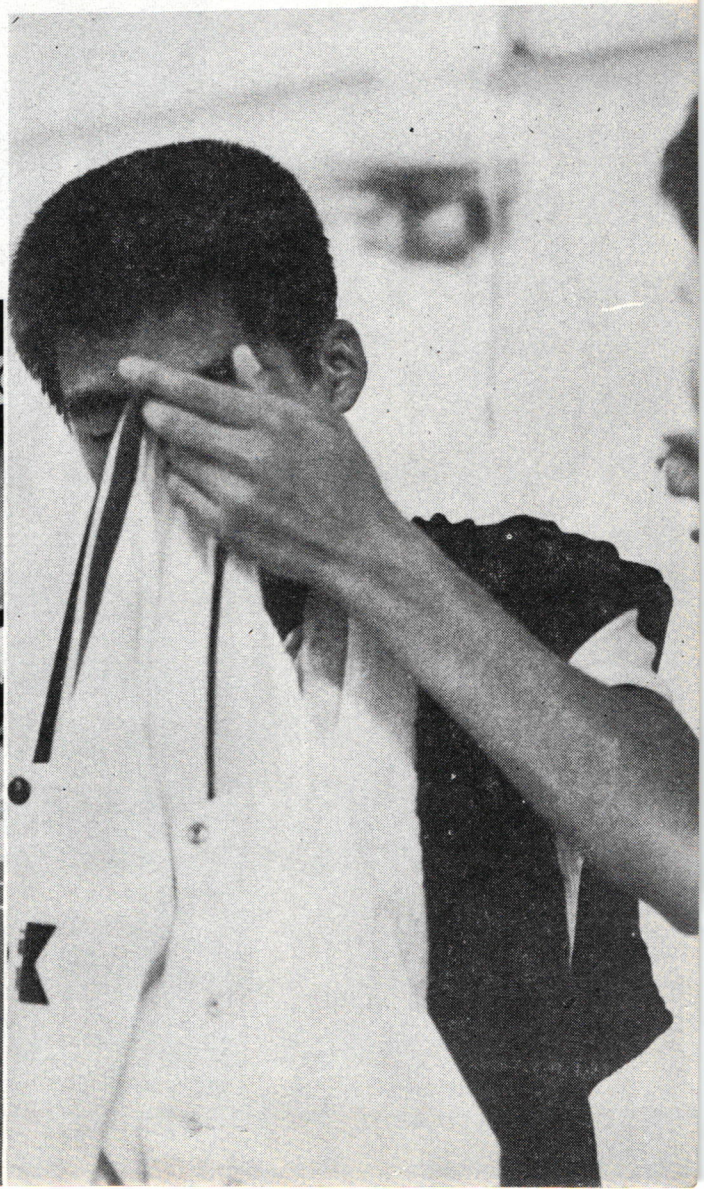
▲スタンドには手ぎわよく試合の結果がはり出されて

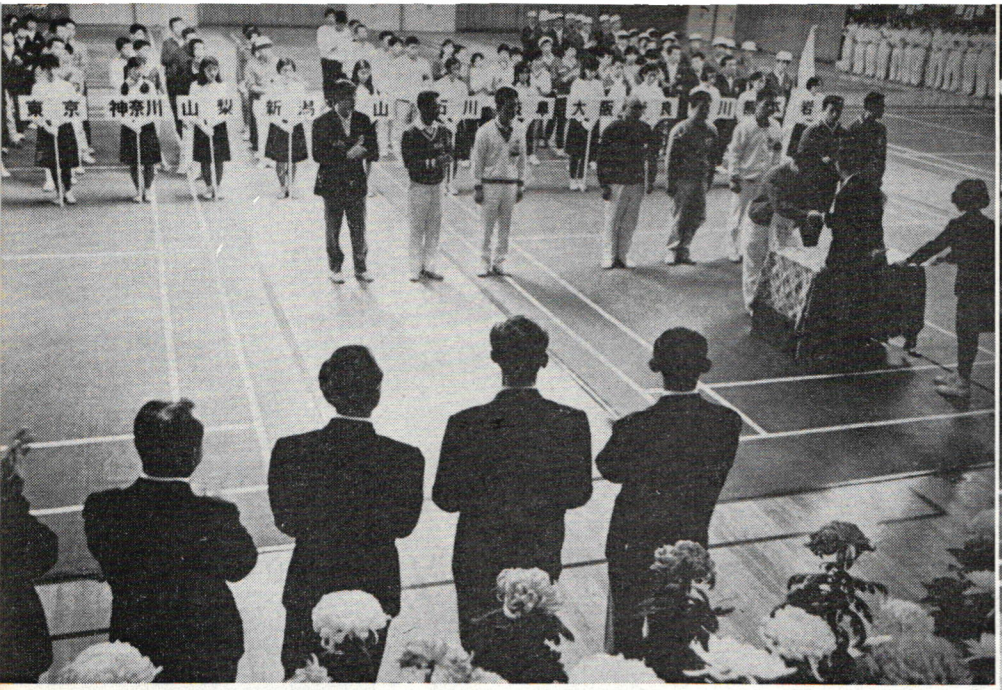
▼日本男児でも涙をながすことがある。うれし涙か？

ズのなかで……

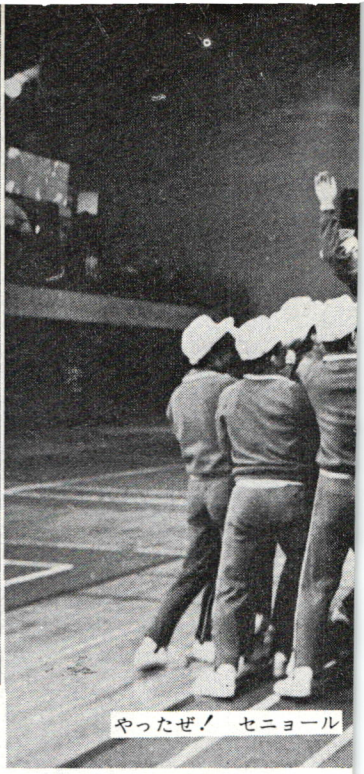
勢の表情をさぐる







▲大会のフィナーレの表彰式。大輪の菊の香もたちこめて
さよなら、今度は和歌山で合いましょう。各県を見送る地元勢▼



やったぜ！　セニョール

よろこびのウ

健斗した地元



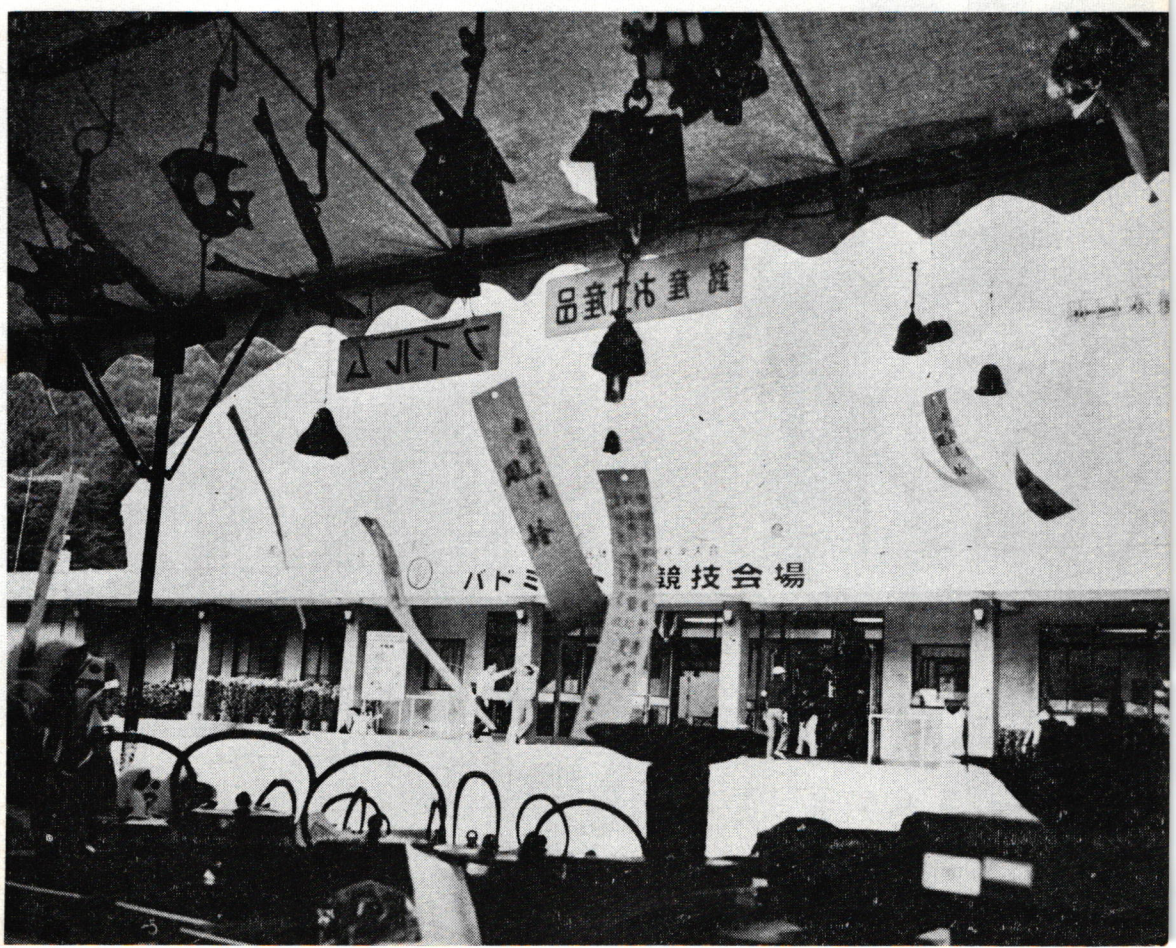


せいぞろいした喜びの岩手県選手団

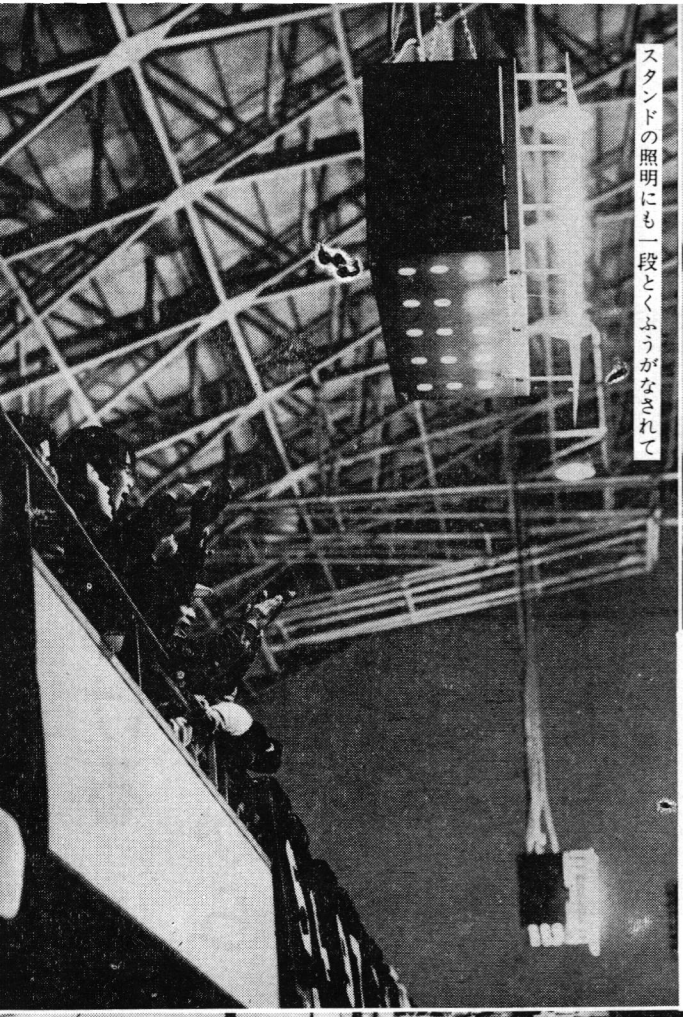


▲箱庭？の日本をつくって、気のきいた地元の歓迎ぶり

▼みやげもののコーナーには名誉の南部鉄でつくった風鈴も涼しげに



試合はドラマだという。しかし、プレー以外のスナップにもドラマは生きている。コートの内外をひとわたり、ぶらぶらすれば、思わず数をがこみあげるようなシーンにであうこと。そのよろこび



スタンドの照明にも一段とくふうがなされて



それ、いけ、もういっちょう

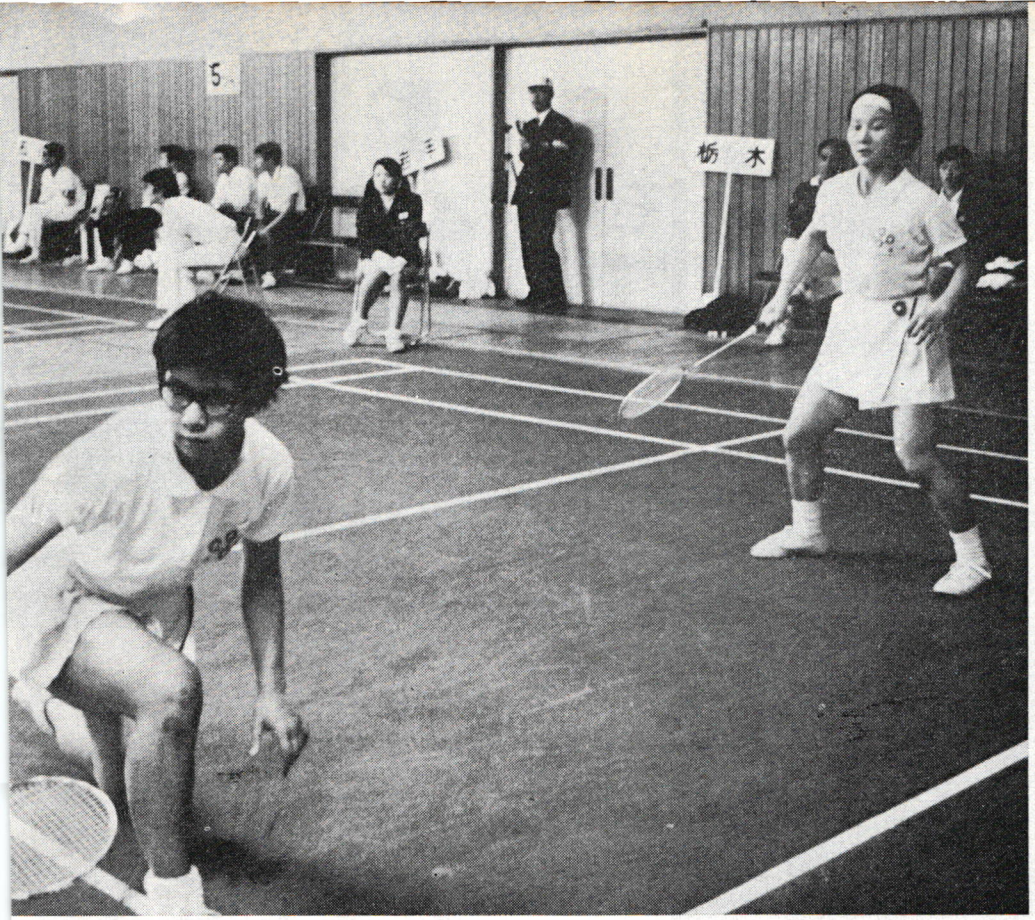
コートのうちそとで



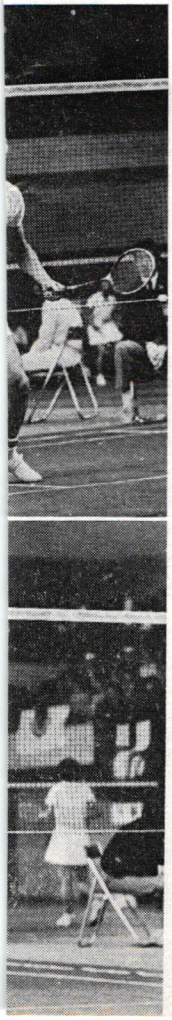
わがバド界の売れゆきも上々、お嬢さんもにっこり

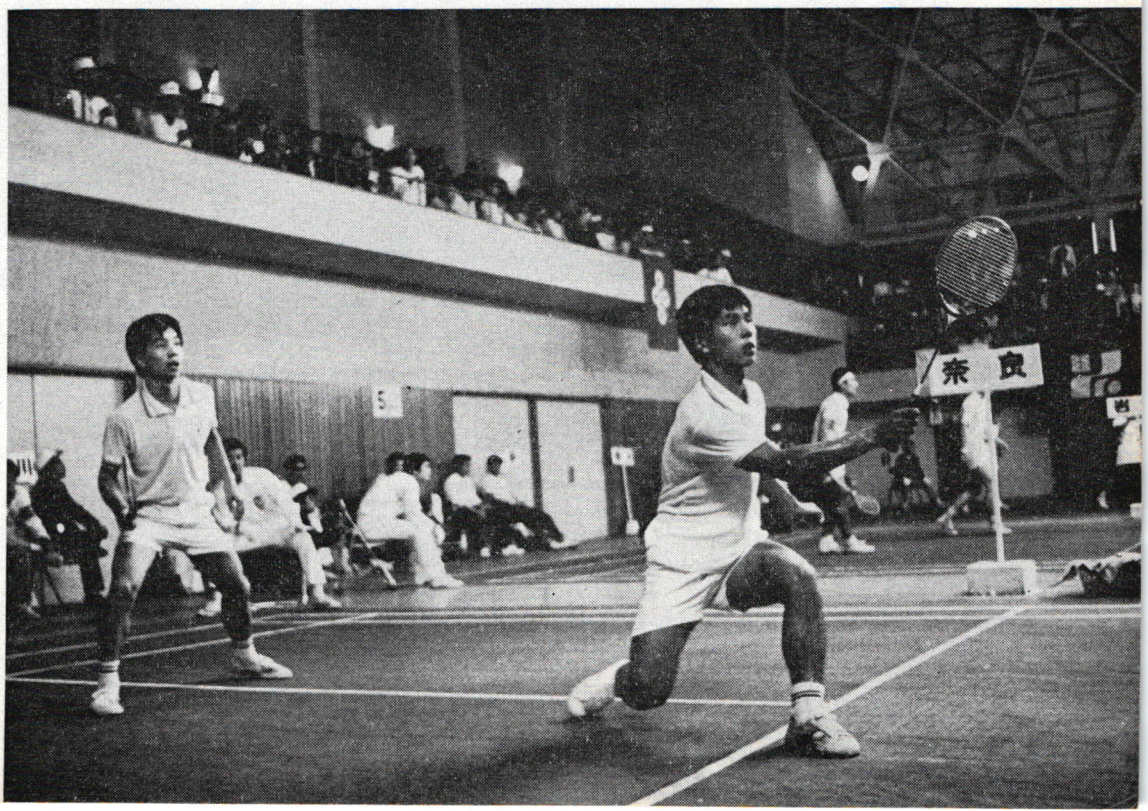
「前」の売れゆきがいいからだろうて？いやあ、ご名察でした。

"この一球"にかける「熱戦のなかから



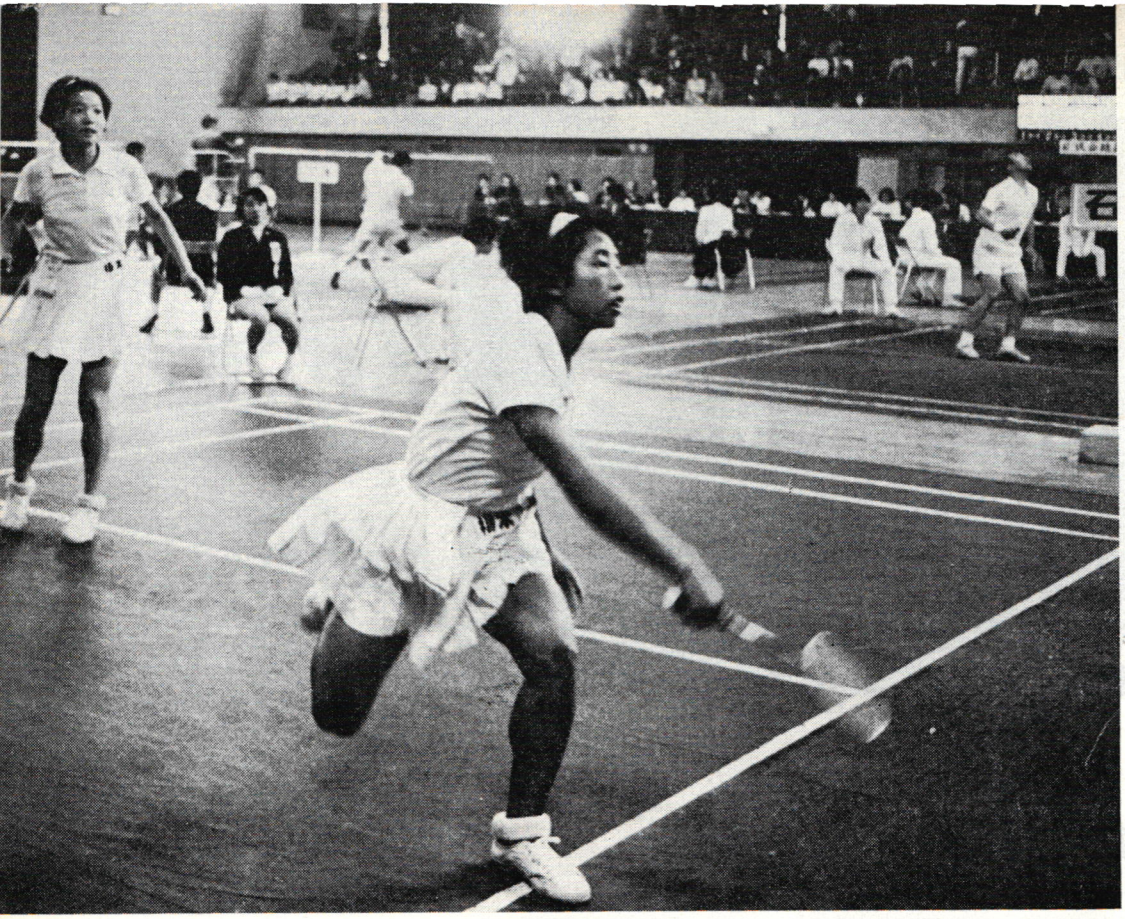
勝負はわからないものだ。"予想"はしばしば、はずれて
記者泣かせとなる。高校女子はインターハイ優勝の栃木が敗れ
教員ぜは、ダークホースつまり"三番手"ぐらいと思われた地元の
岩手が勝ってしまった。そして岩手は総合優勝も。おめでとう。



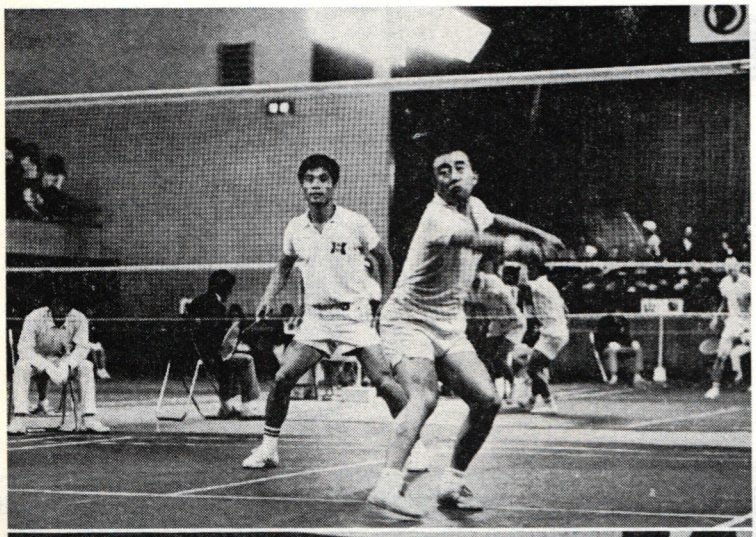


▶高校男子決勝、奈良県

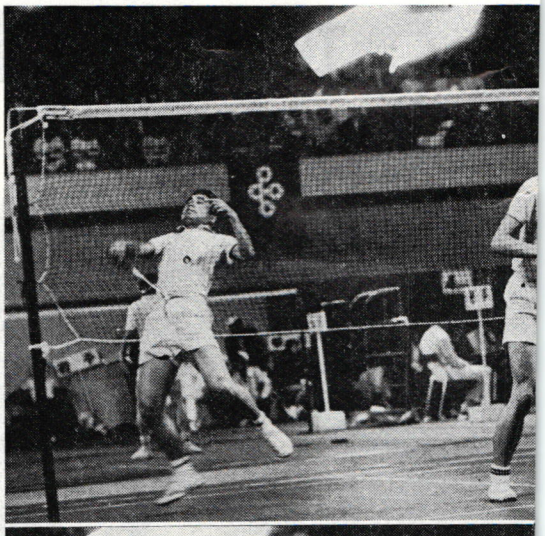
高校女子▶大阪と◀栃木の正座争いは大阪にがい顔

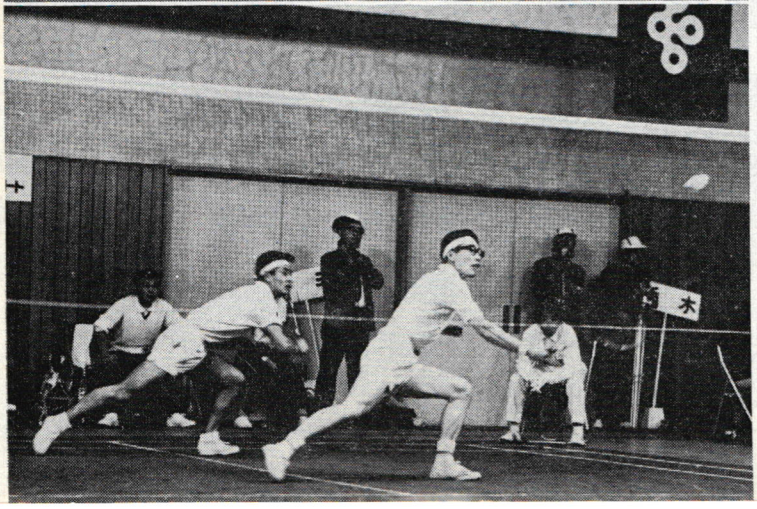




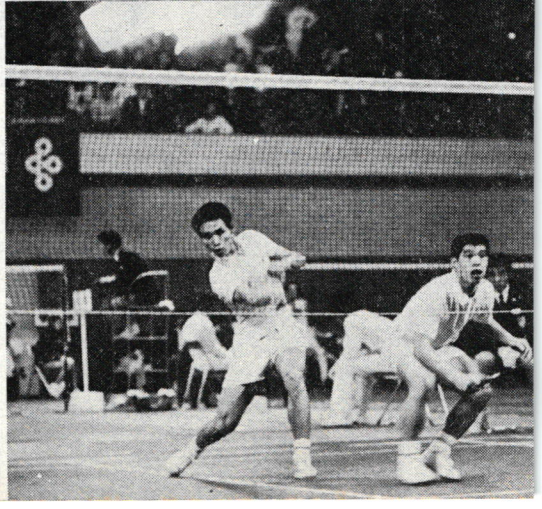


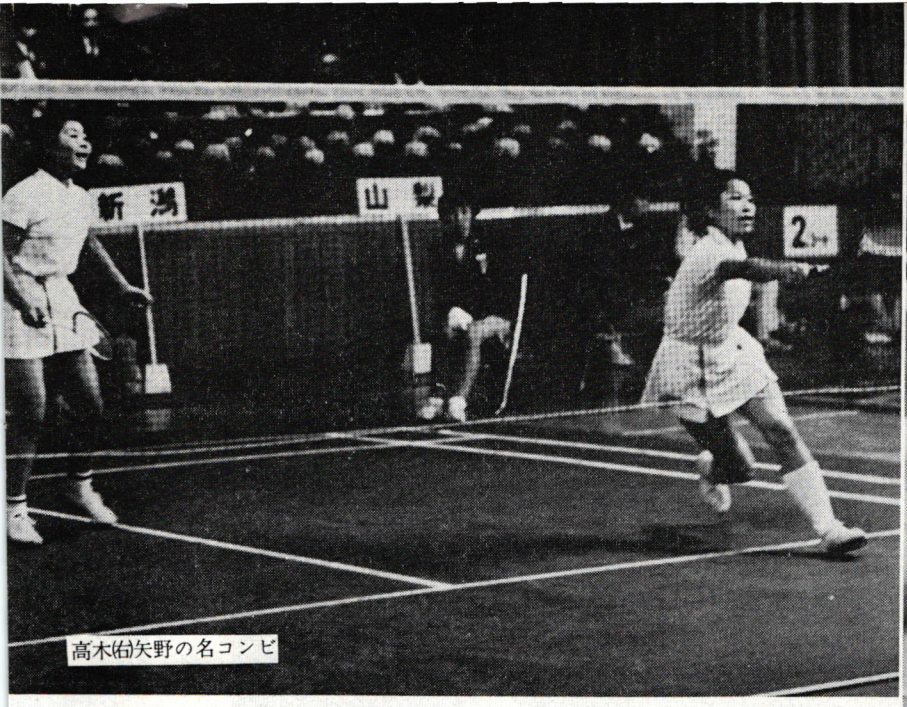
▶一般男子、山梨



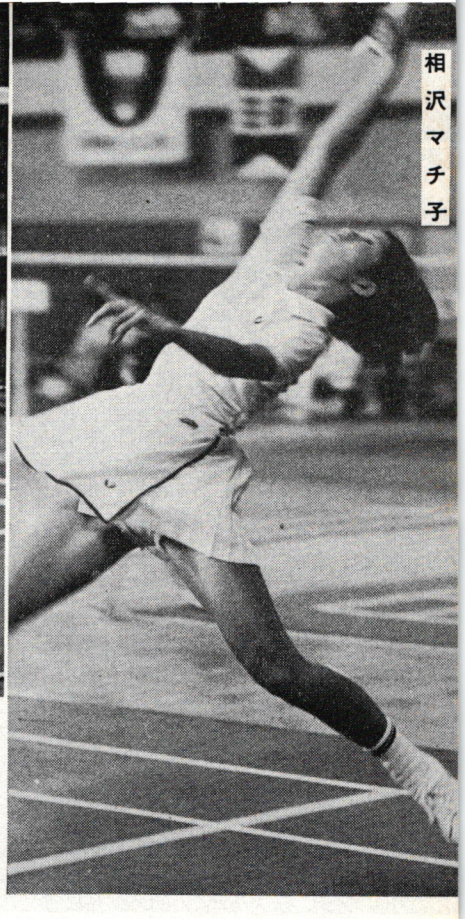


▶くい下がる東京





高木(佑)矢野の名コンビ

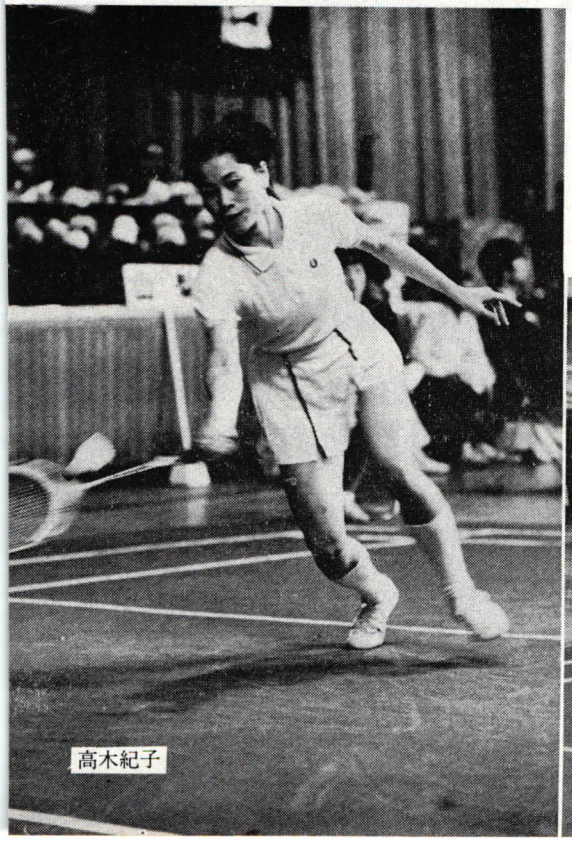

相沢マチ子

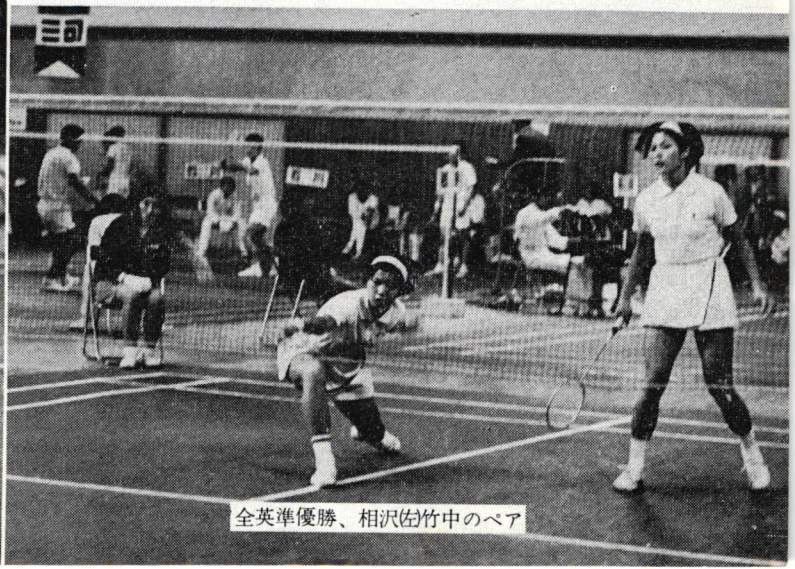
さながら世界選手権

国体は〝祭典〟か〝競技会〟かで。あい変わらず、マスコミやおえら方の論議は続いているようだ。どちっちにしろ、一流選手が番多く出た方が、観客にとってはうれしい大会のムードも盛り上がる。

その代表的だったのが、この一般女子決勝。なにしろ、かたや相沢・竹中、かたや高木・天野というとびきりの上等品。

対決は世界選手権の決勝といってもおかしくないほどで初めてみるつもりを熱狂させた。


高木紀子


全英準優勝、相沢(佑)竹中のペア

バドミントンでリズムをつかもう

〝かけひき〟とは〝リズム〟の攻防

日本協会指導委員長 伊藤基記

よくリズムに乗ってとか、リズムにあわせてとか、リズミカルにとか……いう表現が使われています。

音楽、歌、演奏に関係ある場合だけでなく、運動や動作、その他、生活全般にわたって、広く用いられているように思います。そのリズムの内容については、はっきりつかみにくい場合もあり、リズムの波長やその波型、その幅、その質の点でわかったようでもあり、わからないようなあいまいさがあるのも、リズムというものの特徴かも知れません。

まず字引きをひいてみましょう。ところでその綴りについて知っている方は少ないのではないでしょうか。実はかくいう私も当てずっぽうにlやrを探して見つからず、恥をしのんで英文科の先生に尋ねてrhythmと確認しました。

学生時代に覚えていたのでしょうが、あまりにも日本語化されたこの言葉を使いなれ、聞きなれているうちにスペルなど置き忘れてしまっていたのかも知れません。受験用の英語の勉強などあてになりませんね。

オット話がそれて申しわけありません。さてコンサイスには(1)韻律、律呂、律動、(2)拍子(3)調和、釣合と出ておりました。ついでにrhythmical（リズミカル）は(1)韻律的の、律動的の(2)拍子のよい(3)調和のとれたと釈されていました。

ところで、この世の中の運行には、すべて何か一定の周期があります。太陽を一定時間で廻る地球の自転から生ずる昼と夜の一日、一年、毎年訪れる季節の移り変り、すべて周期という一定の時間の区切りの中にまとめられています。

人間をはじめとして、動物の生活動作、運動、発育にも周期が見られ、そこに若干の加減はあっても、周期の繰り返しがあることは、だれしも気付くことでありましょう。

短かい単位時間の中だけで眺めると、変化があるだけで、周期は見つからないが、その合計ともいうべき更に長い時間の単位で眺めてみると、そこに一定の周期が発見されるということもありましょう。

その周期の区切りをつける因子が、強弱、高低、長短、粗密、空満、深浅、濃淡、寒暖などと教えきれず、しかも、それが重複、交叉して複雑に組み合わされた綾もようの神秘的なリズムには際限がなく、神の力に瞠目（どうもく）するばかりです。

運動のリズムは勿論、緊張と弛緩の周期によって織られてゆきます。その律動がその人の体に適合したときに人間は快感と充実感を味わい、疲労が少なくて、効率をあげることができます。調子がでたとか、ペースに乗ったとかいうのはこういう時に用いられるわけです。

そうして、これは練習によって本能的に獲得される場合が多いわけで、練習効果という言葉を生みだしています。従って練習とは、自分に最も適合したリズムを発見し、それを身につけ、さらに、そのリズムの効率を一層高めてゆこうとする人間の本能的な努力の姿ということができます。

リズムを進めるためには、一時リズムをこわし、分解して、あらたに組み立て直すという一種の空白、抵抗、停滞が生ずるのもやむを得ません。

これを我々にはスランプという言葉で表現しておりますが、この停滞を克服することが努力であり、この努力を苦としないで、むしろ楽しみとするところに進歩という、リズム止揚が生ずることになります。

試合とか、ゲームにはかけひきがつきものであり、このかけひきが人々をスポーツにひきつける力になっています。これをリズムの面から眺めますと、自分のリズムの効率を高め、それを維持してゆく努力をする反面、なるべく相手のリズムを破りその周期をバラバラにすることを心掛けることになります。

ともあれ、お互いのリズムがもつれあって、火花を散らすところにスポーツの面白さがあるのですが、これを余りぎりぎりのところまで追いつめて、逃れるスキ間が全くない状態では、面白さが窒息してしまうおそれがあります。リズムの磨擦にも冷却水が時に必要になります。

バドミントンのゲームには、激しい打ち合いの合間に、吹きださずにはいられないコミックな場面が、必ずといってよいほど出てきますね。なんだやっぱり、バドミントンにひっぱりこむのか、強引だなあと思われてもけっこうです。バドミントンのリズムに乗って下さい。絶対にソンはありません。

中高校編（続）

バックハンドの徹底的研究 ②

必ずワン・ステップ・スイング

打球のとき 考えられる四つの利点

日本協会競技力向上委員
佐藤茂雄

連載 ②

（説明の都合上、前回の最後に述べた「二、レシーブのフォーム」の部分を、重複して掲載します。ご了承下さい）

二、レシーブのフォーム

常にホーム・ポジションにいて①ラケットを持った方の足を前にして②腰を落とし③後足のかかとをあげ、ケリの用意をしておき④ラケットの位置はヘソの前で打球面を垂直にしておき⑤体を開かず、もちろん、いかなる場合も、一番肝要な親指を、グリップの一番広い部分に密着させていることを忘れてはならない。

× × ×

このフォームでホーム・ポジションにいて、かりにフォア・ハンドに球が来たとする（カット、スマッシュ、クリアー等フォアならどこでも、また、どのような種類の球でも構わない）その場合、親指をおろすだけでよい。それでフォア・ハンド・グリップになっているのだから問題はない。

逆の場合を考えて見よう。バック・ハンドに球が来たと仮定する（カット、スマッシュなんでもよい）親指をつけているのだから、なんら問題なく処理出来る。

もし、親指をつけずにいたとすれば、処理が困難なばかりでなく、コントロール、バランスはくずれ、試合の先行など思いもよらない。大きなマイマスは明白である。

左右にタマを散らされた場合は、自分がレシーブしたと同時に必ず親指をつけて待つ。そして、実際にタマが相手の手許を離れたら、これはフォア・ハンドかバックか、球の来る方向は判断出来るのだから、常にバック・ハンドを警戒して、親指をつけていることを忘れてはならない。

三、スイングについて

打球する時は必ずワン・ステップ・スイングを行なうこと。

ワン・ステップを入れるにはそれだけの理由がある。

コントロールを正確にし、常にホーム・ポジションへのリターンが早く、従って守備範囲が広くなり、打球に重さと速さが加わるETC。

これをノー・ステップで行なうと、せっかくのレシーブが死球（しにだま）になり、試合の主導権は完全に相手に奪われてしまうことになる。

必ずワン・ステップ・スイングと同時にフロアーにつける練習を繰り返すとよい。

スマッシュ・レシーブは右足で横または斜め前にに飛び、右足が着地すると同時にリストを利し、フル・スイングと止めるスイングとの中間的なハーフ・スイングを行なうとよい。

同時に左手掌を開いたまま、右手のストロークと同様に添える感じ（両手で打つ気持）でスイングを行ない、体重を合理的に前に移動させる。（図）

ラケットは前に、左手は後方になっているのをよく見かけるが、あれは全く合理性に欠けていて損である。

リズムに乗ればたのしみながらしかも数時間程度でタイミングをつかむことができる。

四、フット・ワークについて

1・ネット前とスマッシュ・レシーブの場合

前回、触れたごとく（図2～3）のフォームでホーム・ポジションにおり、イチ・ニッ・サーンなど自分自身口の中でリズムを取りながら、ワン・ステップ・スイングの反覆練習を行なう。特にネット前の処理は困難な球を予測して左掌を広げ、ス



プレーヤーへの手紙

〝距離〟① 足の訓練10項

全日本教職員連盟常任理事
三須徳次

技術について書くことになりましたが、人それぞれ十人十色ですから、プレーの特色も技術的に違うわけです。従って読者の皆さんのご期待に添うべく、内容的にいろいろと、タイプの異なった選手に次回からご登場願って、少しでも皆さんの目標なり、参考になるように、筆を進めてゆきたいと思います。

関係の諸先輩、先生方からは、すでに本誌で基礎体力、基礎技術、精神力それにヘッド・ワークが大切であることが強調されております。バドミントン競技では、このほか、指導方法や審判法に対する知識も、プレーヤーにとっては欠かすことのできない、大切なファクターを含んでいます。しかし、指導や審判については他の先生にお願いすることとし、私は技術面を中心に皆さんと一緒に研究してゆきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

「題」を〝距離〟と致しましたのは、ある程度バドミントンの知識や技術の経験ある方達が次の過程に進まれるため、なんらかの目標に向ってゆく場合に自分か指導者が決めた目的への距離に、少しでも確実に、少しでも早く、測定をあやまらずに到達してゆかれることを切望したためです。

前置きが長くなって恐縮ですが、今回は足を動かすこととシャトルを打つことを考えてみました。

エンド・ランニングがよくても、ラケットでシャトルを捕らえることが上手にできなければダメですし、その反対にシャトルを打つことは上手でも、足がスムーズに動いてくれなくてはシャトルの落下地点で待ち構える状態は少ないのですから、シャトルを追いかけ廻すのがせいぜい。どちらか一方のみの場合ではアン・バランスになってしまいます。

エンド・ランニングはいわゆるフット・ワークですから、コートでの練習を怠たることは出来ませんけれど、最も重要な足腰の鍛練はランニングによって培われるので、いろんな方法を組み合わせる必要があります。

第一にマラソンと同じ様に長距離を走る。第二はランニングによって持久力がついたら、走っている間に競技に合うよう疾走したり、ゆっくり走ることを繰返す。

第三は危険性のない場所で、バック走法をやる。第四は短距離で行なわれているスタート練習に移ります。両手を叩く合図でもよいですから、音つまり聴覚によって瞬間的に飛び出せる練習。第五は同じスタートの練習ですが、ハンカチーフなど白い布地を前方で落してもらいます。手からハンカチーフが放される瞬間に飛び出すわけで、視覚の練習になります。

ジャンプ力を養うナワとび ケガの予防にも最適

このスタート練習は瞬発力の修得になるわけですから、第六番目は、スタートの出足を変えて、どちらかの足が前に出ていても、爆発的なスタートが可能な訓練をする。第七は短距離を何回も走って、スピードをつけるようにします。第八は横に動く動作を、素早くやっておきます。それには「スポーツ・テスト」で行なわれている反復横とびをお推めします。

横に早く動く敏捷性も大切ですが、柔軟性も関係しますので、第九に徒手体操や一人でもできる柔軟体操を心掛ける。第十は斜め前、及び斜め後方に動くトレーニングに移りますが、一人でやってばかりいますと動きに限度がありますから「バスケット」や、人数が少ない時でしたら「追いかけトレーニング」も面白く、短時間で効果があります。

その他では縄飛び。狭い場所でもやれますし、ジャンプ力の養成にもなること、競技では着地の時に怪我（アキレス腱を切ったり、ケイレンをする）が多いので縄飛びは有効な予防法といえます。以上はバドミントン競技以外でも適応性がありますが、もっとバド競技に密着した方法をこれからも工夫していきたいと思います。

フット・ワークには早く行動する目的があるとはいえ、一流選手のなかにも人間本来の自然の動きに逆流する人を見かけます。スピードを身上とするバドミントンでは仕方がないでしょうけれど、常に基本に忠実な動きをすれば必ず進歩があるのですから、もう一度フット・ワークを登山のつもりで、一歩一歩と踏みしめてゆっくりやり直して下さい。新らしい動きが生まれるはずです。

次号にはモデルとして岩下一雄選手（中大）にトップ・バッターで登場してもらいます。

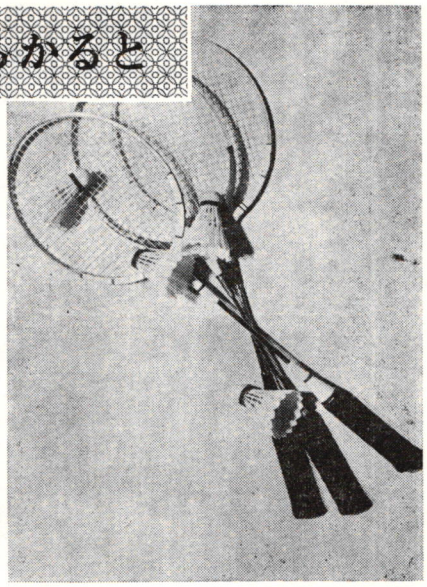
筆者紹介　三須先生は江戸の産中央大学体育講師。東京都職員研修所講師、スワロー化研工業株式会社顧問

新連載 ❸

バドミントン用具の話題あらかると

《ラケットの巻》

日本協会用具委員会
委員長　松本弘充



(四) ラケットの選択

ッットに要求されますが、その中心になるのはシャフトです。

現在のシャフトはスチールになっていますが、柔軟性のあるもの、しかも、しなりすぎないものがよいので、片手で握りの部分をつかみ、片手で先端をもって柄を曲げて、たいして力を入れずに、いくらか曲る程度ならよいわけです。しなりすぎるのはストロークの正確さがそこなわれてよくない。

5・フレーム（枠）

フレームは合板でつくられています。合板とは薄い板を何枚もはり合わせたもので、この薄板が多ければ多いほど、弾力の強いラケットになります。薄板の数が多いということが良質ラケットの特長の一つです。

6・腰の強さ

いままでにあげたことを総合的に見ればよいわけですが、腰の強さも考えるとよいと思います。ラケットの頭をささえて、ラケットをひずませたときの、抵抗ともいうべきものが、腰の強さです。

腕の力の比較的弱い人が腰の強いラケットで打つと、ラケットのひずみがスイングに協力する度合いが少ないため、板でなぐっている感じになり、腰の弱いラケット（パイプが薄かったり、シャフトが細かったり）で

3・グリップ

ハンドルの握りの部分（グリップ）は自分の手によく合うかどうかが大切なことです。現在、販売されているラケットは何種類かのサイズを用意してありますから、自分の手に合ったものをえらぶようにしなければなりません。（自分の手に合うように、けずって調節している人もいます）

またグリップは革などでおおわれていますから、それがしっかりハンドルについているかどうか、握って滑ったりしないか、長持ちするかなど見るようにしましょう。

4・シャフト

空気抵抗の大きいシャトルを速く遠くへ飛ばすはじきがラケ

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

松本製網株式会社	大阪府八尾市福万寺町4-72	TEL 0729 (2) 3217
	◎ 20／12　倉敷ビニロン（MATVMOTO）	
鐘屋産業株式会社	東京都文京区本郷3-17-2	TEL 03 (811) 3773
	◎ ナイロン　A級　◎ 綿　B級	
（株）寺西喜商店	大阪府八尾市福万寺町4-31	TEL 0729 (2) 3210
	◎ バドミントン・ネット　C検定	
（株）ジイティヤング	本社　大阪市南区東平野町2-25	
	支社　東京都墨田区本所1-36-2	TEL 03 (623) 7155
	◎ 20番手　12本クレモナビニロンテトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　テトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　クレモナロープ引紐	
ミセキネット製作所	埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4	TEL 04804 (2) 0379
	◎ ミセキ　VA　◎ ミセキ　A	

力の強い人が打つと、フライトの鋭さが抜けてしまいます。自分にはどれくらいの強さが手ごろかということは、経験に待つよりほかありません。

7・その他

高級のラケットは弦を張らないで販売していますから、自分で張るか依頼して張るかしなければなりません。また現在、販売されている選手用ラケットはよく研究され、細心の注意がはらわれていますから、特別とりあげる必要はありませんが、弦を通す穴の太さ、その方向等も一応は注意の対象になります。

以上、いろいろ重複したようなところもありますが、何点かあげてきました。ラケットを購入する場合、初心者は経験者の助言をうけて購入するようにし、経験をつむにしたがって自分に最も適したラケットが選べるようになるものです。

(五) 弦の張り方 (ガット)

選手用ラケットは普通、弦を張らないで販売しています。しかし、最初から自分で張るわけにもいきませんから、張ってもらうより他ないわけです。だからといって、いつまでも他人に頼っていてはいけないと思いますし、部分修理は自分でやる心がけが必要です。また、弦を張ることは経験を必要としますので、積極的に取り組む必要があると思います。そこで弦の張り方を、順を追って説明することにします。

1・準備

イ、道具

①ガット (弦、以下ガットとします) を締める直経三センチメートルくらいの巻棒。

②目うち (きり)

③はさみ (つめきり) 最低以上の三点は必要です。

④ガットをつぶさないため溝を掘った目打ち。

⑤とげぬき。

⑥張り替えの時、ガットの結び目をはずすため、先を曲げた目打ち

など用意すれば便利です。

ロ、フレームの穴を掃除する

新しいラケットではガットを通す穴が塗料でふさがっていることもあるので、ふさがっている箇所を目打ちであけておく。

また張っている最中とか、張りあがってからもガットが木とすれあって切れるので、穴のあき口の角度をなめらかにするため、不要のガットでフレームの穴をよくこすっておくとよい。(図A)

ハ、フレームの原形を紙に書いておく

初心の頃は張り終ってから比較するために用意するとよい。

ニ、ガットを準備する

一巻になっているものを縦糸の分としてラケットの長さの七・五倍か八倍で切断する。

(ラケットの長さは大体六十六センチメートルですから、五メートルから五メートル三十センチくらいになり、一巻は約十メートルですから、大体一巻の半分くらいになります)

2・張り方

イ、縦糸を張る

①フレームの上端の二つの穴に二分し、そのまま、真下の穴 (首部、いちょうのところ) へ通す。(図B)

②ガットの切り口を揃えて引っ張り、長さを等分にする。

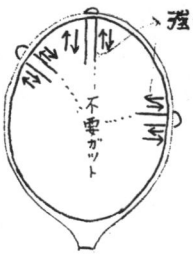
③ガットの真中が動かないように、片方のガットをいちょうの所で親指でおさえ、もう一方のガットを下から上へ、上から下へと通していく。(図C)

④両方が全部通し終えたら、外側に出したガットをいちょうに向って、今張って来たガットを三カ所くぐらせる。

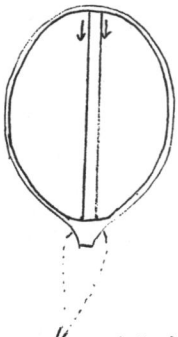
(縦糸は大体二十二本ですから中心からそれぞれ十一本になります。最後は穴を一つとばして十二番目の穴に通します) (図D)

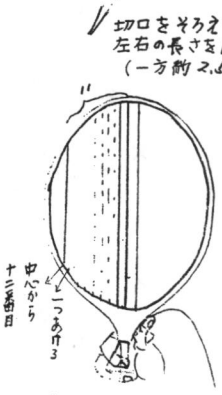
⑤真中の二本を中心に、左右平等に徐々に引っ張っていく。両手で張る時は左右の力が違うので一回毎にラケットをひっくり返して左右均等に引っぱるようにしましょう。また外側に締めていくけれども、引っ張るときは穴の向きが内側に向いているので内側に引くようにするとよくしまるわけです。

⑥何回も引っぱると縦糸が強く張られフレームの原形より丸味をおびてくるし (大体原形より五ミリメートルから一センチメートルたての長さがちぢむ) ガットをはじくと快よい音がする。(図E) そしてここで両端をしめてください。

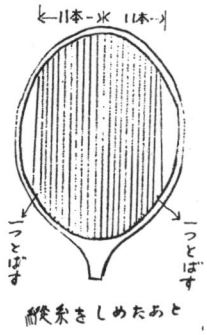


(図A)

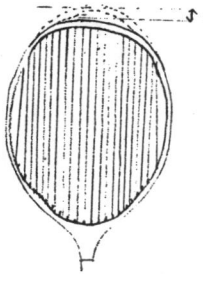

(図B)



(図C)



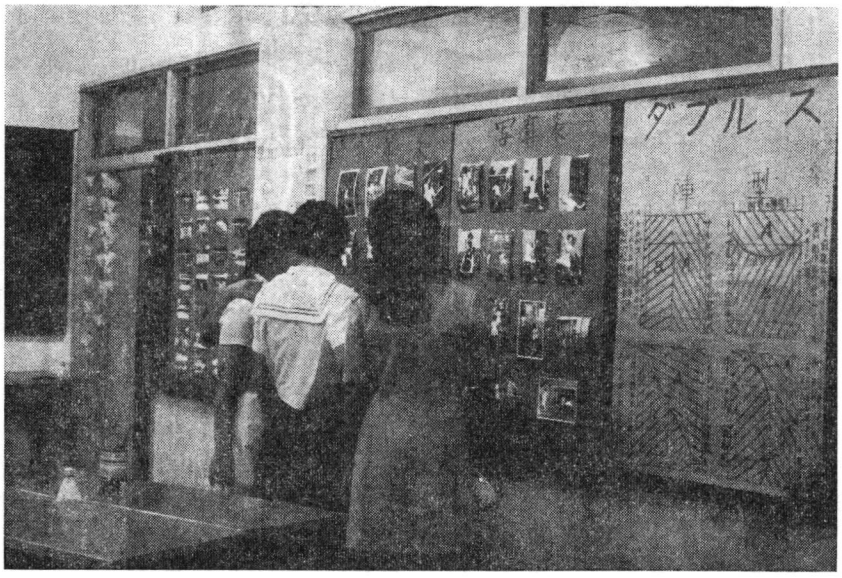
(図D)


(図E)

北から南から

ルールや用具

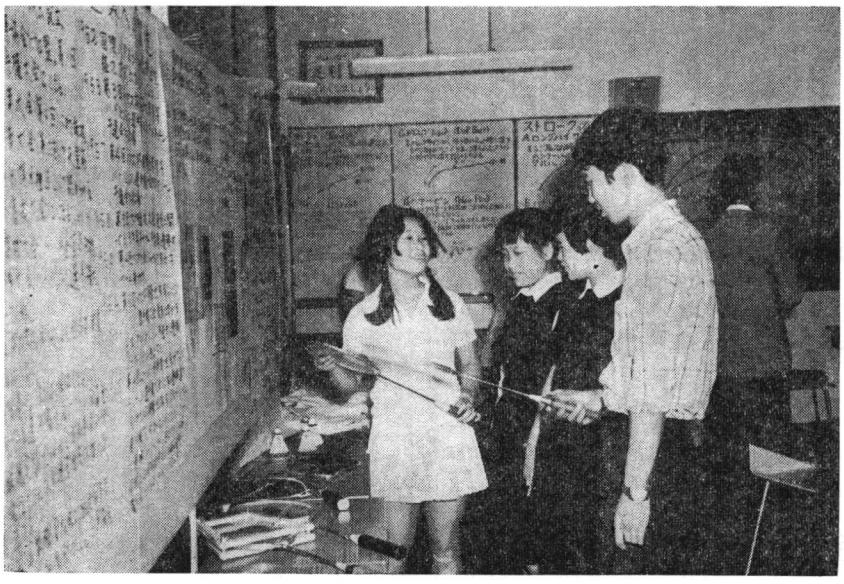
▼ダブルスのフォーメーションは，なかなか複雑ですよ



園祭でバドミントン展

活動にひと役

日本協会は写真



▲ええ，ラケットにもいろい種類がありましてえー……

九月の始めごろ、東京・日本橋女学館の生徒が数人、日本協会を訪れた。「学園祭でバドミントンの展示をやりたいので、第一線選手の写真などを貸してほしい」とのこと。

ちょうど「バド界」が撮影したものがあったので、さっそく提供した。その後、桐朋学園その他からも、同じ趣旨で申し込みがあった。

この種の催しでバドミントンがPRされることは、協会にとっても嬉しい限りだ。このほど日本橋女学園から礼状と展示の写真が届いたので、その一部をご紹介する。

× × ×

学園祭は九月十二、十三の両日に行なわれた。運動クラブが参加する場合は、クラブの成績発表と招待試合が多い。本校では、やはり招待試合と〝これがバドミントンだ〟というテーマの展示を行なった。

最近、バドミントンの一般への普及はめざましいが、一部には、まだ軽度のレクリエーション・スポーツという程度の認識しかないので、少しでも正しい理解を得たいと考えたからだ。

展示はルールや用具、ストローク、戦術の解説から、日本の歩み、そして写真集と多彩にわたった。

日本協会のご協力に感謝するとともに、展示が成功裡に終わったことを、ご報告いたします。

（バドミントン・クラブ顧問・南城三知男、小山貴）

▼「日本が国際連盟に加盟したのは1952年」と歴史も解説

★ ★

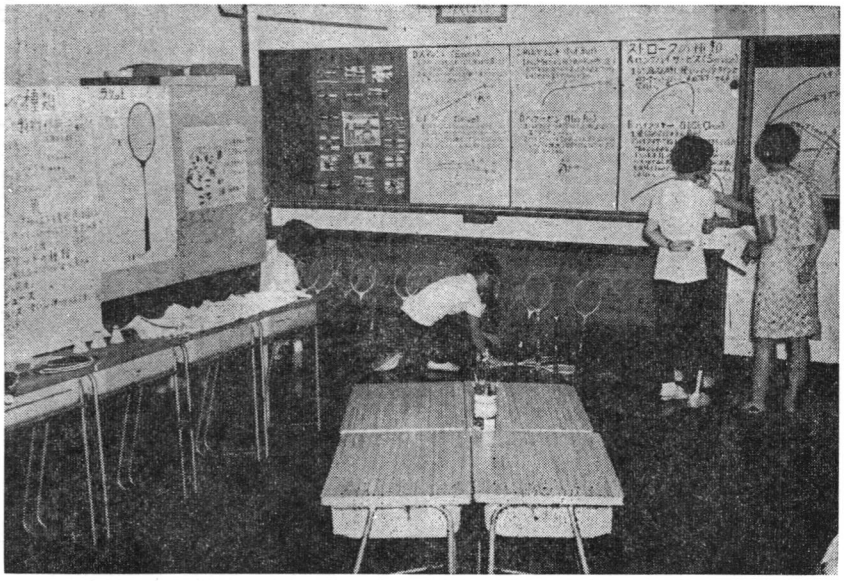


★ 技術入門も解説」★

東京・神田女学園が

高校生もP

★ 提供で協力



▲あら，ストロークの種類も，こんなにたくさんあるのね。へえー？

バドミントンが模範演技を披露

‖ 全国青年大会の交歓会で ‖

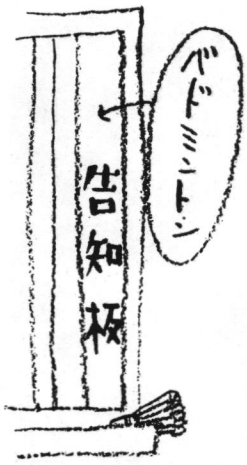
第十九回全国青年大会（十一月十一日～十四日）で、バドミントンが〝模範演技〟を披露した。

この大会は全日本や国体などのクラスに出場した経験者を除き、全国都道府県、職場から六千五百人が参加して、スポーツ九種目を行なうもの。

文部省、総理府などの主催で、バドミントンが種目に加えられたのは一昨年から。

第一日の十一日は国立競技場で開会式のあと、東京体育館で交歓会が開かれた。席上「バドミントンは近年、普及がいちぢるしいし、レベルも世界一流。この機会に、トップ級のプレーを見たいとの希望が強いので」ということで、女子ダブルスの湯木・本間（日女体大）×小片・堀川（日体大）が紹介され、万雷の拍手をあびた。

北から南から



シャフトが刺さり高校生死亡

＝新潟で異例（史上初）の事故＝

原因，がたついたラケットの使用

新潟県でラケットの柄が刺さって、練習中の高校生が死亡するという、バドミントンでは、きわめて異例の不幸な出来ごとがあった。日本協会では、ただちに事情を調査、用具委員長、指導委員長の連名で、加盟団体あて、注意をうながす文書を配布した。

×　×　×

新聞報道、および、市嶋常務理事（用具委員）の調査報告によると、事件は大要、次のとおりである。

十月二十一日午後五時十分ごろ、新潟県三条工高で、バドミントン部員が練習中、不幸がおこった。

同部員たちは午後五時ごろから講堂で練習を始めた。講堂はコートが三面とれる広さで、当時、卓球部と体操部も練習していた。

たまたまA選手の打ったシャトルがB選手（ガットのないラケットで素振りをしていた）の方向にとんできた。そこでB選手が空振りをしたところ、そのラケットはシャフトの部分からすっぽ抜け、そこから約3㍍ぐらい離れたところで練習中の近藤組雄選手（一七）＝全日制化学工業科二年＝の後頭部に突き刺さった。

ただちに医師の手当てを受けたが、シャフトの先きは小脳まで刺さっていたため、近藤君は意識が戻らぬまま、翌二十二日午前四時半ごろ他界した。

ラケットがグリップの部分を残して、シャフトから先きが抜けて飛び、しかも、それが人の体に突きささるという〝二重の事故〟は、きわめて異例であり、被害者の近藤選手には、まことにお気の毒だったとしか、いいようがない。

しかし、ラケットも、古くなれば、シャフトの部分から抜けることは、あり得るわけだ。

警察もふくめ、関係者の調べを総合すると、この事件のラケットは、四十三年の前半に売り出されたものらしく、三条工高では、このラケットを二、三年にわたって部員が代々、受けついで使っていた。

しかも、これまでにも何回かシャフトの部分がぐらぐらしていた、という。シャフトは金属であり、もし、抜けて飛べば、危険なことは当然である。

したがって、バドミントンを愛好する人々は、日常、自分のラケットを点検し、また、共同で一つのラケットを使うような場合、指導監督者も、同じく充分に注意を払わなければいけない。

また、業界関係者にも、さらに品質の向上に努力し、あわせて、万一、抜けて飛んだような場合でも、決定的な被害を人体に与えないよう、シャフトのさし込みの部分に、製造上の注意をするよう、特に要望したい。

〝古いものは使わぬよう〟用具、指導委が注意を喚起

この点に関連して、日本協会の用具委員会（松本弘充委員長）と指導委員会（伊藤基記委員長）は、プレーヤーおよび指導者に、次の諸点に留意するよう呼びかけている。

①ラケット（スチール・シャフト・ラケット）は、永久使用可能なものではない。使用の度合によるが、大体、一シーズンから一年と考えるべきだ。

②グリップの部分（シャフトをさし込んである部分）が、ぐらついたり、くるくる回るような場合には、使用しないこと。

③素振り練習の場合はカベにむかってやるとか、至近距離で相対して行なわないとか、方法を考える。

④今回のような事故は史上はじめてだが、二度とあってはならない。用具の点検、管理には充分すぎるほど気をつける。

⑤事故は予期しないときに、予期しない形で起こってくるものである。コートが足りない、せまい場合でも、人が混雑しないような練習方法や計画を立てること。

川端・日本協会理事長の話

近藤選手には、心からおくやみを申し上げる。今後、このようなことが絶対ないよう、われわれ協会役員をはじめ、プレーヤー、指導者、メーカーすべての関係者が注意するようにしたい。

指導者各位に対しては、このさい、とくに「技術指導ばかりでなく、用具、練習計画の管理についても、厳しくするよう」お願いしたい。

プレーヤー諸君も、ラケットは自分のものを使うようにされたい。自分の道具であれば、愛情がわき、手入れ、点検等もいきとどくものだ。

インドネシア遠征陣決まる

ア大会代表のほか　鷲尾秋本加え

日本協会は、インドネシアの招きに応じて、アジア大会直前、同国に男女チームを派遣することを決めた。

一行は、すでに決まっているアジア大会代表のほか、鷲尾（中大）秋本（四条畷学園）を加えた計十二人である。

インドネシアとの交流は、この春から、トマス杯戦（二月、京都）のときに話が起こった。

インドネシアはハルトノはじめ名選手を有して、今年トマス杯の王座を獲得した強国。トマス杯優勝をめざす日本男子としてはこのインドネシアを倒すことが先決であり、それには、今回が願ってもないチャンス。

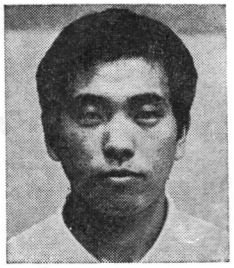
一方、女子にとっても、いぜん、同国はライバルの一つであり、国際交流の少ない日本としてはどんな機会をも利用した方がいい。

こうしたことから、具体的な点について交渉を重ねた結果、アジア大会の直前、同大会の前哨戦というかたちで開催することに決まった。

日本チームは、十一月二十四日に出発、二十七、二十八の両日にわたって男女の対抗戦（2複3単の予定）をジャカルタで行ない、十二月一日までに帰国する。

そして、鷲尾、秋本両選手を除く一行は、三日に東京の日本体育協会で、アジア大会選手団日本代表（計二百六十一名）としての結団式を行ない、四日に日本を再出発する。

なお、この対抗戦の今後については、なにも決まっていないが、日本としては、できれば恒例の行事として継続できることを希望している。



鷲尾　正一



秋本八代美

▼鷲尾正一（三）中大三年、69年全日本総合ダブルス二位、70年全日本学生ダブルス優勝、177㌢、64㌔

▼秋本八代美（七）大阪・四条畷学園高二年、70年全国高校選手権シングルス、ダブルス二位、国体優勝、153㌢、52㌔

【インドネシア遠征チーム】

▼監督　川端昇市（日本協会理事長）▼コーチ　板恒隆房（同競技力向上委員）

▼男子　小島一平（ヨネヤマラケット）梅野尾昌一（同）本間順次（中大）谷口寛（立大）鷲尾正一（中大）

▼女子　湯木博江（日女体大）相沢マチ子（新潟青陵短大研究室）竹中悦子（同）西尾真理子（四条畷学園高）秋本八代美（同）

ア大会代表が最後の合宿

十一月十八日～二十三日

アジア大会代表選手団は、インドネシア遠征の二選手も加え十一月十八日から出発前日まで東京・代々木の青少年センター（もとオリンピック選手村）で最後の調整合宿を行なった。

この合宿は、コートを昼間に使えないため、朝と夜間が中心という、変則的なものとなった（全員、元気いっぱい、川端監督、板垣コーチの指導のもと、調整とダブルス練習を主体に、ミーティングによる勉強やチームワークのねり上げなど、みっちりと身につけた。

また夏のユニバーシアード大会（学生のオリンピック、今年八月イタリアのトリノで開かれた）のおり、フェンシング代表が「行動がわるい」と新聞で大きく批判されたことなどもあるので、一行は、インドネシア、アジア大会を通じ、日本代表として恥ずかしくない行動に終始するよう、特に申し合わせた。

ア大会の個人戦エントリー決める

アジア大会の日本チームは、個人戦に出場するメンバーを申し込み締め切り日の十一月十九日、つぎのように決めた。

大会の日程細目は、この日までにくわしいことが全然、わかっていないが、個人戦はシングルス（男女）各一人、ダブルス（男、女、混合）各一組しか参加できない規則になっている。

このため、首脳陣は、勝利への可能性と、できるだけ多くの選手を出す建て前から、人選をすすめた。

▼男子シングルス＝小島一平▼同ダブルス＝本間順次、梅野尾昌一▼女子シングルス＝湯木博江▼同ダブルス＝竹中悦子、相沢マチ子▼混合＝小島、竹中

早わかり競技規則
ルール100問？

連載⑱

日本教職員連盟
審判部監修

インプレーになってから間違いに気付いた場合

問64　ラリーが続いている最中に間違いに気が付いたとき、直ぐ、ラリーを中止して、処理しますか。

答　インプレーの場合、つまりサービスのはじめから、フォルトかレットが生じたり、シャトルが地面に触れたりするまでの間ですが、この最中にサービスやレシーブなどの間違いだったことに気がついたときのことですね。

これには二通りの考え方があります。主審は気が付いたら、直ちにプレーを中止させるべきという考えと、ラリーが終るのを待って、第12条に基づき処理すべきだという考えです。

結論だけ申しますと、普通は後者をとります。つまり、ラリーを中止しないのです。これには明瞭な根拠があるのですが、くわしくは第Ⅲ編の「審判法」で説明しましょう。

どちらにしても、気が付いたプレーヤーが、ラリーの途中で勝手にプレーを中止し、「さっきのサービス（レシーブ）は間違っていました」などと訴えたりしますと、そのラリーに敗けたことになります。

エンドの交換

問65　エンドを換えるのを忘れていたときは、気が付いたときに換え、スコアはそのままでしたね。もし換える場合でないのに換えてしまったらどうしますか。

答　例えば女子シングルスのファイナル・ゲームで、勝っている方が5点にしかなっていないのにエンドを換えたような場合ですね。

次のサービスがなされる前に主審が気付いたり、プレーヤーから訴えられたときは、「レット」とします。その最後のプレーは無かったこととし、前のエンドに戻って再開します。

しかし、次のサービスがなされれば、もう訂正できません。そしてそのゲームの終りまで、そのままのエンドでプレーすることになります。

問66　シングルのサービスの順序を教えて下さい。

答　シングルスのサービスはダブルスに比べ大変簡単です。何しろ、各サイド一人ずつですからね。

全て、そのときのサーバーの得点によってきめるのです。サーバーの得点が0または偶数であれば、サーバーは右のサービス・コートからサービスをします。従ってレシーバーは、自分の得点に関係なく、自分のエンドの右側のサービス・コートでレシーブします。

反対に、サーバーの得点が奇数であれば、サーバーは左からサーブし、レシーバーはこれをレシーブするため、自分から見て左側のサービス・コートに入ります。

9・フォルト（I）サービス関係

（規則第14・16・19条）

問67　フォルトってどういう意味ですか。ファウルといってもいいんですか。

答　フォルト（fault）とファウル（foul）は似た言葉ですが、しいて訳しわければ、フォルトは「失敗」、ファウルは「反則」ということになりましょうか。

バドミントンではファウルという語は使いません。そして、「フォルト」を「競技規則上の要求を充たすことに失敗する」ということから、結局「反則」の意味に用います。

さて、アウトサイドがフォルトを犯せばインサイドに1点与えられ、インサイドがフォルトを犯せば、サービス権が移動します。つまり、「サービス・オーバー」になったり、ダブルスでは、そのほか「セカンド・サーバー」になったりするのです。

問68　では「フォルト」は「ミス」といってもいいんですね。

フォルトとエラー、ミスの区別

エラー（error）は「過失」と訳しましょう。同じミスでも、そのミスが対手に有利な結果になると「エラー」なのです。例えば、ネット近くにいる対手の前にやさしい球を送ってしまうと、対手は、得たりとばかり打ちこんで、こちらがやられてしまいますね。

この場合、そんなところへシャトルが地面に触れたりするまでの間ですが、この最中にサービスやレシーブなどの間違いだったことに気がついたときのことですね。

答　いやいや「ミス」はもっと広い意味です。もう一つ「エラー」という語があり、日本ではこの「ミス」と「エラー」が混用されていますから、まず、この点からハッキリする必要があります。

ミス（miss）は「失策」とでもいうことで、プレーヤーの意図の通りにプレーできなかったことです。例えば、対手から来たシャトルをスマッシュしようとしてラケットを振ったのに、空振りしてしまったとします。

これは、プレーヤーの意図に反し、スマッシュできなかったのですから、そのプレーヤーは打球をミスしたことになります。ところが、そのシャトルがどんどん飛び続けて、コートの外へ出てしまったとします。

すると、これは対手のフォルトとなり、スマッシュしそこなったプレーヤーの失点にはなりません。

この場合、スマッシュできなかったことは「ミス」ですが「エラー」とはいわないのです。

この場合、そんなところへシ

ヤトルを上げてしまったことは「エラー」なのです。前に述べたスマッシュの空振りの場合でも、空振りの後、そのシャトルがこちらのコート内に落ちたのだったら、その空振りはミスであると同時にエラーということにもなります。

14あるフォルトの種類

さて、いよいよ「フォルト」ですが、フォルトは、エラーの中でも、そのエラーの結果が競技規則のフォルトに該当するものだけをいいます。

例えば、強く打ち過ぎるというエラーを犯かした結果、シャトルが対手コートの外へ出てしまえば、これはエラーであると同時にフォルトということになるのです。

結局、ミスの一部がエラーになりエラーの内、特定のものがフォルトだということです。

この章では「フォルト」だけについてお話しますが、競技規則の第14条のフォルトの条項だけでなく、第16条と第19条および、第20条に書かれていることも、犯かせばフォルトになりますので、これも一緒に考えてゆきましょう。

最後に、バドミントンでは、サービスで始められたラリーがその終りは必ず、①シャトルが床面に触れるか、②レットになるか、③フォルトを生ずるか、の三つのどれかになりますが、普通の試合では、どちらかのサイドのフォルトで終ることが一番多いのです。

ですから、バドミントンではフォルトを犯かすことの少ない方が勝つのだといっても差し支えないくらいで、その意味でもフォルトについては正確な知識が必要です。

問69 フォルトにはどんな種類が、いくつくらいあるんですか。

答 日本では、フォルトの内容に応じて、大部分のものに名前をつけます。国際的に通用するかどうか怪しいものもありますが、大変便利ですから、これを利用するとしましょう。

これによりますと、フォルトの種類は14です。そのうち、サービスだけに特有なものが5種類、残りの9種類はサービス以外のときだけフォルトと、サービスにもそれ以外にも共通のものです。

フォルトの日本名称は、そのつどお話しします。

問70 まず、サービスだけのフォルトを教えて下さい。

答 サービスだけに関するフォルトは、①オーバー・ウエスト、②オーバー・ハンド、③ライン・クロス（フット・フォルトの一種ですが特別にします）④フット・フォルト、ボーグの5種類です。

このうち①、②、⑤はサーバーのみ、③、④はレシーバーの両方に関係します。

海外の試合日程決まる
全英は三月二十四日から

▼スウェーデン国際選手権（1月9、10日ヨテボリ）▼インド選手権（1月9～16日ハイデラバド）▼スコットランド・オープン（1月15、16日エジンバラ）▼アイルランド・オープン（2月19、20日ダブリン）▼ベルギー国際選手権（2月26～28日ブリュッセル）▼デンマーク・オープン（3月15～18日コペンハーゲン）▼全英選手権（3月24～27日ウェンブレー）▼カナダ選手権（4月2～4日モントリオール）▼フランス国際選手権（4月3、4日パリ）▼全米選手権（4月11～14日ラスベガス）▼香港選手権（4月19～25日香港）▼バミューダ・オープン（3月19～21日ハミルトン）



⊠第二十五回国体

◉高校男子

▼一回戦

佐藤壮橋	高岩手	青山	銭谷	竹銭村谷	異石川	竹内	西異川	奈良
2	2	2	2	2	3	2	0	2
1715	1	1518	1515	151015	0	151215	1411	1
1611	1	1117	1 10	9 15 7	1	6 15 9	1715	宮
0	長	0	0	1	香	1	2	城
佐大藤東彰	崎	日下	横田	福崎	川	小原	小市原川	

▼二回戦

高橋	佐藤	佐高藤橋	市川	小原	市小川原	奈良	異石川	竹内
2	2	2	0	2	2	2	3	2
1515	1515	1515	3 16	1515	1715	1	0	151215
1 11	10 3 15	11 4	1517	7 4	14 9	宮	1515	6 15 9
0	1	0	2	0	0	城	1 4	1
富田	坂本	刈屋	山口	中川	藤木		0	小原
							市川	

▼三位決定戦

竹内	西異川	奈良	高橋	佐藤	高藤橋	岩手	青山	銭谷
0	2	2	2	2	0	2	2	2
5 10	1515	1	17 8 15	1515	14 5	1	1518	1515
1515	10 3	石	151512	6 11	1715	三	1117	10
2	0	川	1	0	2	重	0	0
青山	竹銭村谷		井崎	槇野	小井崎林		日下	横田

▼準決勝

竹銭村谷	西異川	奈良	青山	佐藤	高藤橋	井崎	槇野	小井崎林
2	2	2	2	2	0	2	1	2
1515	1515	0	1515	1515	14 5	1515	1215 5	1515
5 8	1312	三	9 10	6 11	1715	1 11	151215	2 6
0	0	重	0	0	2	0	2	0
佐藤壮橋	小井崎林		佐藤吉	槇野	井崎林	滝沢	折井	滝沢

▼決勝

三重	高橋	佐藤吉	竹内	西異川	奈良	岩手	佐藤吉	高藤橋
2	2	0	2	2	2	2	0	0
1	1518	11 8	1515	1515	1	1	11 8	14 5
神奈川	8 16	1515	7 12	1312	石川	三重	1515	1715
	0	2	0	0			2	2
	佐藤彰	大東	槇野	小井崎林			大東	小井崎林

◉高校女子

▼一回戦

異石川	石吉	石田	岡山	静岡	宮川本	樋口	宮川田	香川
2	0	2	2	1	0	2	2	2
15 4 18	11 8	1111	1		4 5	1815	1111	1
121516	1515	6 3	静		1111	13 9	8 8	福
1	2	0	岡		2	0	0	島
銭谷	大東	仁藤			今川	有村上	村上	

▼二回戦

山島	秋富山	西秋本	西尾	西秋本尾	川東	森森	川東	香川
2	3	2	2	2	2	0	2	2
1518	0	1111	1111	1715	1111	2 8	1515	1
7 13	岩	6 2	1 7	14 7	2 5	1111	7 6	福
0	手	0	0	0	0	2	0	島
伊洞		剛	石	吉石	助	伏	助	
藤口		迫	田	田	川	見	川見	

宮	川	樋宮	長	吉	石	吉石	異	
田	本	口田	崎	田	田	田田		
2	0	2	2	2	2	0	2	
1111	4 5	1815	1	1111	1111	4 6	15 4 18	
8 8	1111	13 9	北	6 7	6 3	1515	121516	
0	2	0	海	0	0	2	1	
村	今	有村	道	平	仁	仁平	銭	
上	川	田上		野	藤	藤田	谷	

◉教員男子

▼一回戦

藤原	森田原	香川	西尾	秋本尾	西	大阪	藤井	小林井
2	0	2	2	2	2	2	2	2
1515	1215	1	1111	1715	1111	0	1111	1515
15 5	1517	1	9 7	1412	2 7	2	4 5	11 6
0	2	三	0	0	0	0	0	0
南	大南世古	重	藤井	藤小林井	川東	栃木	山森	島田森

▼決勝

西	秋本尾	秋西	大阪	藤井	小林井	栃木	小林	藤井
2	2	2	2	2	2	2	2	2
1111	151415	1111	0	1111	1515	0	1111	11 4 12
2 7	4 17 7	4 5	香	4 5	11 6	富	2 2	4 11 9
0	1	0	川	0	0	山	0	1
川	森川	山		森	島田森		川本	宮田

▼準決勝

藤井林	藤小	栃木	小林	藤井	小藤林井	栃木	島田	山森
2	2	2	2	2	2	3	2	2
1515	1515	0	1111	11 4 12	1515	0	1111	1111
10 4	11 6	富	2 2	4 11 9	10 4	長	6 5 11	6 7
0	0	山	0	1	0	崎	1	0
樋宮口田	島田森		川本	宮田	樋宮口田		洞口	小野寺

藤原	森田原	香川	西尾	秋本尾	西	大阪	藤井	小林井
2	0	2	2	2	2	2	2	2
1515	1215	1	1111	1715	1111	0	1111	1515
15 5	1517	1	9 7	1412	2 7	2	4 5	11 6
0	2	三	0	0	0	0	0	0
南	大南世古	重	藤井	藤小林井	川東	栃木	山森	島田森

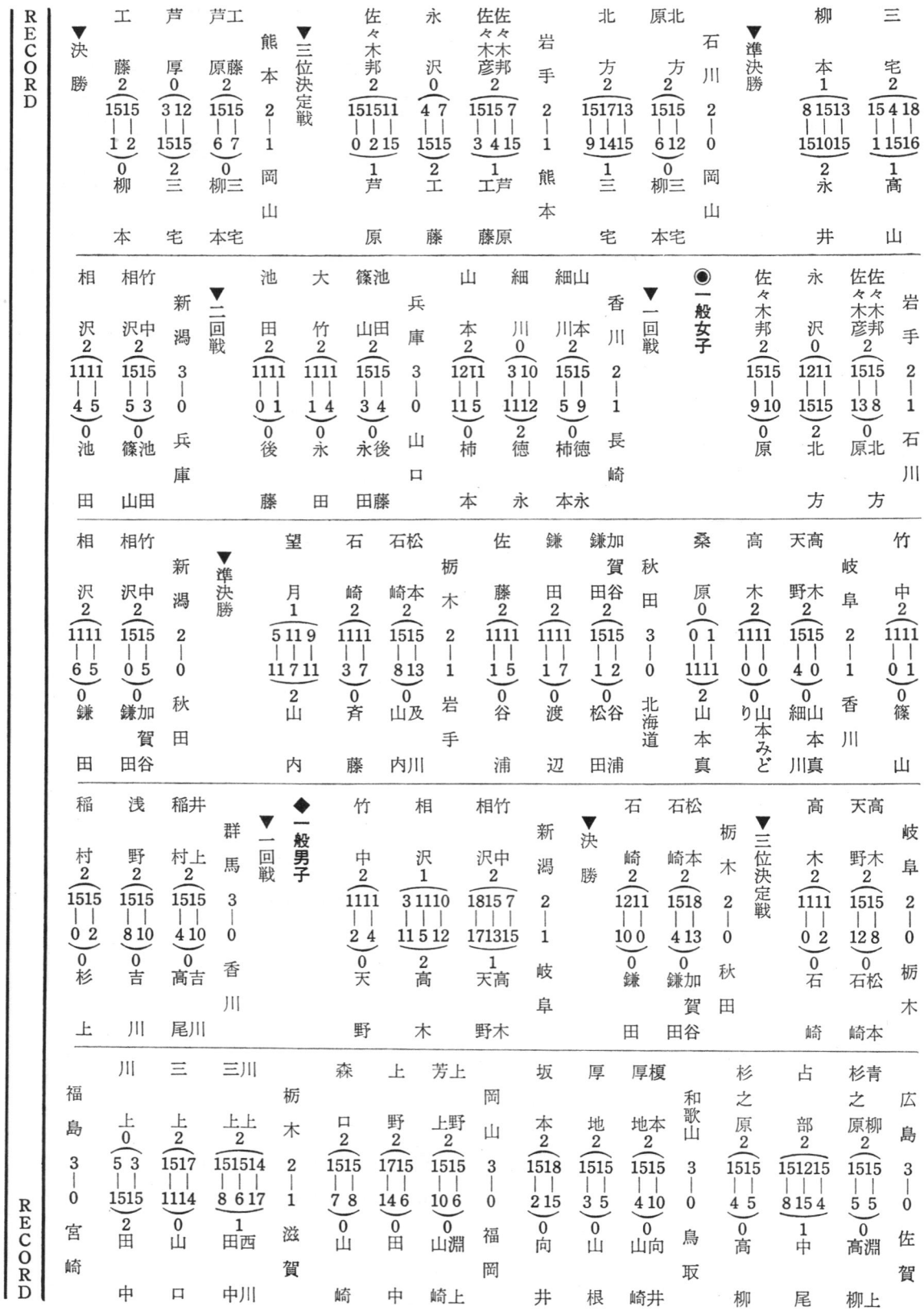
▼準決勝

小林	藤井	藤小林井	栃木	藤井	小藤林井	島田	山森	
2	2	2	3	2	2	2	2	
1111	11 4 12	1515	0	1111	1515	1111	1111	
2 2	4 11 9	10 4	長	6 5 11	10 4	3 11	6 7	
0	1	0	崎	1	0	1	0	
川本	宮田	樋宮口田		洞口	樋宮口田	洞口	小野寺	

▼二回戦

三柳本宅	原岡山	北方	原北方	永沢	佐々木邦	岩手	西田	芦原
2	2	0	2	1	2	2	2	2
1515	1717	2 3	151512	161115	1515	1	1515	1515
13 5	1415	1515	3 5 15	1715 6	0 5	北	7 3	10 4
0	0	2	1	2	0	海	0	0
高永山井	中嶋	杉田	中杉嶋田	杉田	宮崎	道	新名	藤原

芦工原藤	熊本	鹿野	高山	高永山井	森田			
2	3	0	2	2	2			
151515	0	5 3	1515 8	1515	1515 2			
3 1118	香	1515	121015	10 8	3 8 15			
1	川	2	1	0	1			
藤森原田		藤原	横田	藤久保田原	大世古			


▼決勝
工藤 2 1515 1 2 0 柳本
芦原 2 1515 6 7 0 三本宅
芦厚 0 3 12 1515 2 三宅
熊本 2 1 岡山
▼三位決定戦
佐々木邦 2 151511 0 2 15 1 芦原
永沢 0 4 7 1515 2 工藤
佐々木邦彦 2 1515 7 15 3 4 1 工芦藤原
岩手 2 1 熊本
北方 2 151713 9 1415 1 三宅
北原 2 1515 6 12 0 三本宅
石川 2 0 岡山
▼準決勝
柳本 1 8 1513 151015 2 永井
三宅 2 15 4 18 1 1516 1 高山
相沢 2 1111 4 5 0 池田
相中沢 2 1515 5 3 0 池山田
新潟 3 0 兵庫
▼二回戦
池田 2 1111 0 1 0 後藤
大竹 2 1111 1 4 0 永田
篠池山田 2 1515 3 4 0 後藤田
兵庫 3 0 山口
山本 2 1211 11 5 0 柿本
細川 0 3 10 1112 2 徳永
細山川本 2 1515 5 9 0 柿徳本永
香川 2 1 長崎
▼一回戦
◉一般女子
佐々木邦 2 1515 9 10 0 原
永沢 0 1211 1515 2 北方
佐々木邦彦 2 1515 13 8 0 原北方
岩手 2 1 石川
相沢 2 1111 6 5 0 鎌田
相中沢 2 1515 0 5 0 鎌加賀谷田
新潟 2 0 秋田
▼準決勝
望月 1 5 11 9 11 7 11 2 山内
石崎 2 1111 3 7 0 斉藤
石松崎本 2 1515 8 13 0 山及内川
栃木 2 1 岩手
佐藤 2 1111 1 5 0 谷浦
鎌田 2 1111 1 7 0 渡辺
鎌加賀田谷 2 1515 1 2 0 松谷田浦
秋田 3 0 北海道
桑原 0 0 1 1111 2 山本真
高木 2 1111 0 0 0 り山本みど
高天野木 2 1515 4 0 0 細山本川真
岐阜 2 1 香川
竹中 2 1111 0 1 0 篠山
稲村 2 1515 0 2 0 杉上
浅野 2 1515 8 10 0 吉川
稲井村上 2 1515 4 10 0 高吉尾川
群馬 3 0 香川
▼一回戦
◆一般男子
竹中 2 1111 2 4 0 天野
相沢 1 3 1110 11 5 12 2 高木
相竹沢中 2 1815 7 171315 1 天高野木
新潟 2 1 岐阜
▼決勝
石崎 2 1211 10 0 0 鎌田
松崎本 2 1518 4 13 0 鎌加賀田谷
栃木 2 0 秋田
▼三位決定戦
高木 2 1111 0 2 0 石崎
天野 2 1515 12 8 0 石松崎本
岐阜 2 0 栃木
福島 3 0 宮崎
川上 0 5 3 1515 2 田中
三上 2 1517 1114 0 山口
三川上上 2 151514 8 6 17 1 田西中川
栃木 2 1 滋賀
森口 2 1515 7 8 0 山崎
上野 2 1715 14 6 0 田中
芳上野 2 1515 10 6 0 淵崎上
岡山 3 0 福岡
坂本 2 1518 2 15 0 向井
厚地 2 1515 3 5 0 山根
厚榎地本 2 1515 4 10 0 山向崎井
和歌山 3 0 鳥取
杉之原 2 1515 4 5 0 高柳
占部 2 151215 8 15 4 1 中尾
青杉之原柳 2 1515 5 5 0 高淵上柳
広島 3 0 佐賀

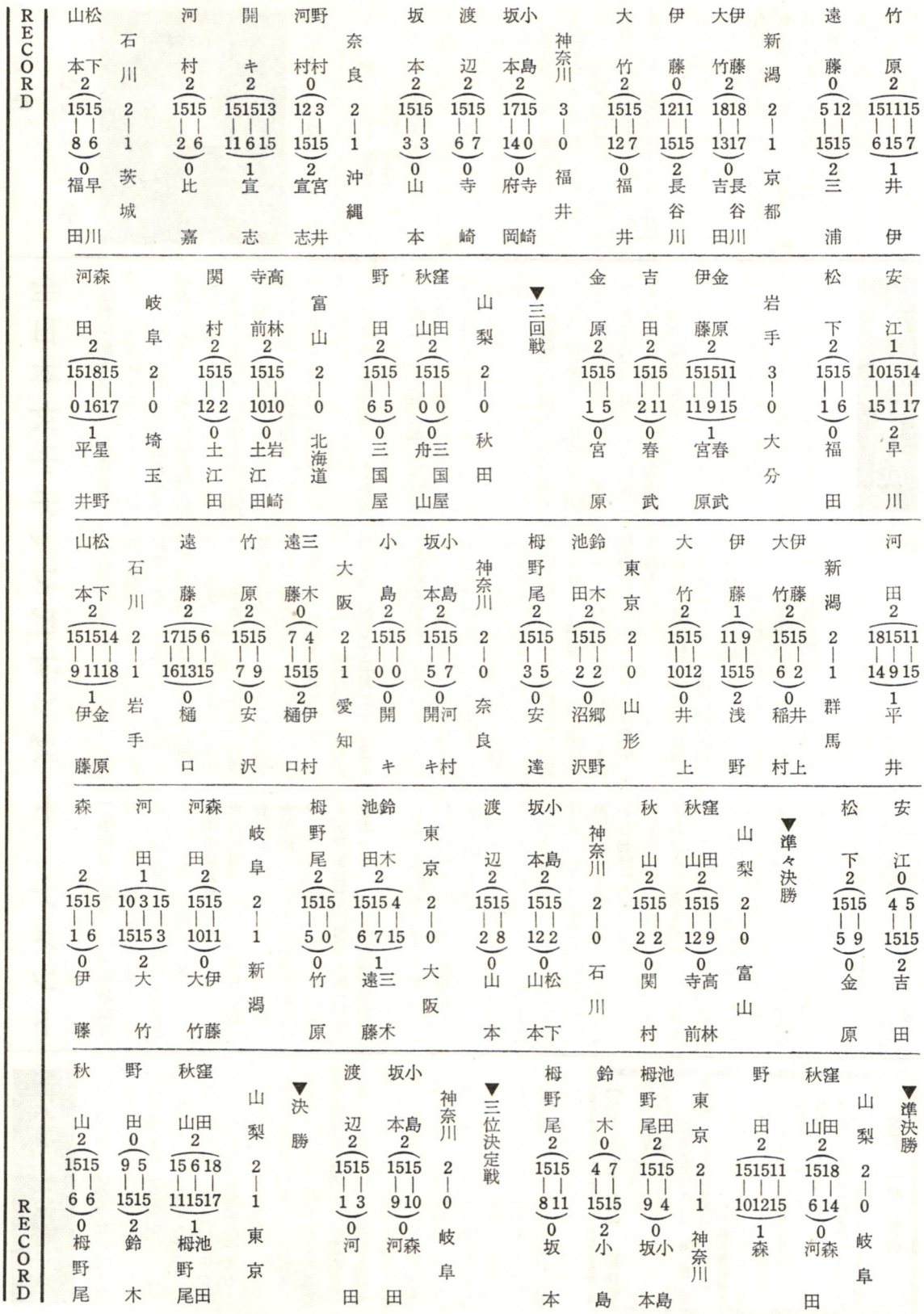
久保田馬	兵庫	福井	長谷川	吉長谷田川	京都	遠藤	竹原	三遠藤木	大阪	河添	末広	河末添広	山口	宗像	菊地	須藤像
2	3	0	2	2	2	2	2	2	3	2	0	2	2	2	2	2
1815	0	6 4	1815	15 7 15	1	1515	1815	1515	0	1515	4 3	1515	1	151015	1515	1515
1 4 6	愛媛	1515	1 3 9	7 15 7	静岡	2 2	1 4 5	4 3	長野	1 7	1515	5 11	熊本	7 1511	4 3	1012
0		2	0	1		0	0	0		0	2	0		1	0	0
村八		平	日下	大平		伊藤	伊藏	阿伊藤		西	高浜	高西岡		徳永	松本	徳小倉
上木		野	部	石野		隆	尚	江尚		岡	浜	浜		永	本	永倉

伊金藤原	岩手	府岡	山本	府寺岡崎	福井	森澄	近藤	近吉藤岡	千葉	早川	佐藤	福早田川	茨城	高馬	大竹
2	3	2	2	2	3	2	2	2	3	2	0	2	2	2	2
1515	0	1515	1515	1515	0	151015	1515	151516	0	1818 1	10 7	1515	1	1515	1815
3 1	徳島	6 6	3 11	6 2	島根	8 1512	4 5	4 1118	鹿児島	151315	1515	3 7	三重	4 11	1 4 4
0		0	0	0		1	0	1		1	2	0		0	0
佐星		船	岩	岩船		厚ケ	前	厚前ケ		増	山	小増竹		村	三好
藤加		江	田	田江		瀬	薗	瀬薗		井	口	井		上	好

寺高	富山	窪	野	秋窪	山梨	山	土江	土岩江	北海道	▼二回戦	河	開	河野	奈良	金	吉田
前林		田	田	山田		田	田	田崎			村	キ	村村		原	寛
2	3	2	2	2	3	2	2	2	3		2	2	0	2	2	2
1515	0	1515	1515	1515	0	1515	1515	1515	0		1515	151015	1311	1	1515	1515
1 2 8	岡山	6 5	5 3	0 0	広島	7 6	2 3	2 8	栃木		1113	111510	1515	青森	7 5	3 6
0		0	0	0		0	0	0			0	1	2		0	0
芳上		杉之	占	杉青之		川	三	三川			七	山	七小山		佐藤	吉田
上野		原	部	原柳		上	上	上上			戸	田	戸内		藤	栄

栂野尾	鈴池田木	東京	星野	中山	平星井野	埼玉	森	樋口	河森田	岐阜	熊地	舟山	舟三国屋	秋田	高林	関村
2	2	3	2	1	2	2	2	2	2	3	1	2	2	2	2	2
1515	1515	0	1515	131513	1515	1	1515	1515	1515	0	4 1218	1515	1515	1	1515	1715
6 3	5 5	兵庫	5 3	151015	5 5	和歌山	3 2	12 9	2 9	福島	151513	8 3	1111	高知	5 4	1612
0	0		0	2	0		0	0	0		2	0	0		0	0
大竹	久高保田馬		坂本	厚地	榎厚本地		宗像	菊池	宗須像藤		武村	浜田	武山村本		芳上	上野

遠三藤木	大阪	樋口	安沢	樋伊口村	愛知	稲村	浅野	稲井村上	群馬	沼沢	安達	沼郷沢野	山形	鈴木	RECORD
2	2	2	1	2	2	2	2	2	3	2	2	2	3	2	
1515	1	1515	8 15 2	1515	1	1515	1518	1515	0	1815	1515	1515	0	1515	
1 9	宮城	1011	15 3 15	9 9	千葉	12 6	7 16	9 8	長崎	1311	6 12	2 5	山口	4 7	
0		0	2	0		0	0	0		0	0	0		0	
三今浦野		吉岡	近藤	吉近岡藤		前田	松野	松平野野		石川	末広	河末添広		高馬	


山松本下 2 1515 8 6 0 福早田川
石川 2 1 茨城
河村 2 1515 2 6 0 比嘉
開キ 2 151513 11 6 15 1 宣志
河野村村 0 12 3 1515 2 宣宮井志
奈良 2 1 沖縄
坂本 2 1515 3 3 0 山本
渡辺 2 1515 6 7 0 寺崎
坂小本島 2 1715 14 0 0 府寺岡崎
神奈川 3 0 福井
大竹 2 1515 12 7 0 福井
伊藤 0 1211 1515 2 長谷川
大伊竹藤 2 1818 1317 0 吉長田川
新潟 2 1 京都
遠藤 0 5 12 1515 2 三浦
竹原 2 151115 6 15 7 1 井伊
河森田 2 151815 0 16 17 1 平星井野
岐阜 2 0 埼玉
関村 2 1515 12 2 0 土江田
高寺前林 2 1515 1010 0 土岩江田崎
富山 2 0 北海道
野田 2 1515 6 5 0 三国屋
秋窪山田 2 1515 0 0 0 舟三国山屋
山梨 2 0 秋田
▼三回戦
金原 2 1515 1 5 0 宮原
吉田 2 1515 2 11 0 春武
伊金藤原 2 151511 11 9 15 1 宮春原武
岩手 3 0 大分
松下 2 1515 1 6 0 福田
安江 1 101514 15 1 17 2 早川
山松本下 2 151514 9 11 18 1 伊金藤原
石川 2 1 岩手
遠藤 2 1715 6 161315 0 樋口
竹原 2 1515 7 9 0 安沢
三遠藤木 0 7 4 1515 2 樋伊口村
大阪 2 1 愛知
小島 2 1515 0 0 0 開キ
坂小本島 2 1515 5 7 0 開キ村
神奈川 2 0 奈良
梅野尾 2 1515 3 5 0 安達
鈴池田木 2 1515 2 2 0 沼郷沢野
東京 2 0 山形
大竹 2 1515 1012 0 井上
伊藤 1 11 9 1515 2 浅野
大伊竹藤 2 1515 6 2 0 稲井村上
新潟 2 1 群馬
河田 2 181511 14 9 15 1 平井
森 2 1515 1 6 0 伊藤原
河田 1 10 3 15 1515 3 2 大竹
河森田 2 1515 1011 0 大伊藤
岐阜 2 1 新潟
梅野尾 2 1515 5 0 0 竹原
鈴池田木 2 1515 4 6 7 15 1 遠三藤木
東京 2 0 大阪
渡辺 2 1515 2 8 0 山本
坂小本島 2 1515 12 2 0 山松本下
神奈川 2 0 石川
秋山 2 1515 2 2 0 関村
窪山田 2 1515 12 9 0 寺高前林
山梨 2 0 富山
▼準々決勝
松下 2 1515 5 9 0 金原
安江 0 4 5 1515 2 吉田
秋山 2 1515 6 6 0 梅野尾
野田 0 9 5 1515 2 鈴木
秋窪山田 2 15 6 18 111517 1 梅池野尾田
山梨 2 1 東京
▼決勝
渡辺 2 1515 1 3 0 河田
坂小本島 2 1515 9 10 0 河森田
神奈川 2 0 岐阜
▼三位決定戦
梅野尾 2 1515 8 11 0 坂本
鈴木 0 4 7 1515 2 小島
梅池野尾田 2 1515 9 4 0 坂小本島
東京 2 1 神奈川
野田 2 151511 101215 1 森
秋窪山田 2 1518 6 14 0 河森田
山梨 2 0 岐阜
▼準決勝

ラスト・コーナー

《表紙》

相沢マチ子



いまさら解説するまでもない。竹中悦子とコンビで、昨年以来、ぐんぐん有名になった。シングルスでは一時期、低迷していたが、今季は社会人選手権、アジア大会代表選考会で、竹中、湯木をそれぞれあと一歩まで追いつめ、復調（進境？）を示した。

彼女がなぜ低迷し、また、なぜ迷いがふっきれたようになったか。あるいはプライバシーに触れるかもしれないので、筆を止めよう。愛称はコンブ（?!）

一人ッ子で甘ったれのところがあり、会えばニコニコっとするバラ色のほほのお嬢さん。中学から新潟青陵学園で、今春、短大卒。コンビの竹中嬢も一時彼女の家に寄宿していた。

服飾関係を専攻、自分の着るものの多くは自分でつくる。次期ユ杯に勝つまでは、と年末、竹中とともにヨネヤマ入り。

全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

新春を飾る第二回の全日本女子チャンピオンズ・トーナメントが、一月十日午前十時から午後四時まで、東京・駒沢公園体育館で開かれます。

このトーナメントはユ杯の勝利を記念して今年の正月に創設されたもので、東京12チャンネル・テレビとその系列局で放映されます。

出場者は、各年度に、主要大会（海外もふくむ）にシングルスで優勝したもの、およびそれに準ずるもので、八人まで。今回は高木紀子（東海女短大教）竹中悦子、相沢マチ子（ヨネヤマ）湯木博江（日女体大）高坂薫（青学）柴山きよこ（東大阪短大）陣内裕子（成安女高）西尾真理子（四条畷高）です。

入場料は一般二百円、中高校生百円（**但し十二月二十五日まで予約申し込みすれば半額になる。**）日本協会事務局あて早めに。（代金は当日引きかえOK）

× × ×

◉本号の写真

★表紙撮影　松井亮磨

★同デザイン　小浜正道

★国体グラフ＝山田真市★その他＝フォト岸本、青木昭二（大阪府理事長）山村徳太郎（中大）

◉カット　おおば比呂司

編集後記

沖縄は四十七年に本土に復帰するが、その翌年の初夏に、本土復帰を記念するスポーツ大会が盛大に開かれることに決まった。

琉球政府、沖縄体協、政府・自民党、そして日本体協など関係者が協議し合った結果、まとまったもので、日本政府は復帰記念事業の一環として、資金面で多額の援助を行なう。

実施される種目は、大衆性、つまり普及発展につながり、将来とも、お金がかからないようなもの、の順に選定され、もちろん、バドミントンも加えられた。

愛好者である読者の皆さんとともども、喜びたい。この機会に本誌は、近く、一つの企画を立てて、皆さん方のご協力を得たいと思っている。よろしく。

○…外人の「バド界」定期講読者第一号が誕生した。米国マサチューセッツ州エバレットに住むガブリエル・チャン氏が、その人。

最近、日本協会事務局に着いた手紙によると、同氏は創刊号から11号までの本誌を「読んで大変たのしかった。とり合えず5ドル送金するが、定期講読をしたいから、委細を知らせてほしい」という。

手紙には、このチャン氏、日本語が読めるかどうか、書いていないので知るよしもないが、もし、ながめるだけでも「楽しい」のだとしたら、編集部のハナも高いわけだ。

○…本号「告知板」でおわかりのように、アジア大会の前に日本代表がインドネシアへ遠征する（いや、本誌が読者の手に渡るときには、完了形になっているわけ）。

最初の予定では、インドネシアからそのままバンコク（アジア大会）入りの予定だったが、体協から「一旦、もどるように」いわれた。「それなら行くのを止めた方がいい」といった協会役員がいたそうだが、国際信義というのは、そう簡単ではない。相手の準備を台なしにしたら、将来、両国そのものの関係はどうなるだろうか。

（薫）

次号予告

いい写真が多かったので本号は8ページのグラフを組み、おかげで予定したものが、かなり入らなくなってしまった。

この分では、ヘタに予告をすると、次の号で毎度あやまることをくりかえしそうだ。

さて次号は待望の写真特集。主要ストロークについての連続写真を豊富に掲載、解説をくわえる。このため、一般記事は大幅に削減され、なにを掲載できるか、ちょっと予告できかねる。

予定としては、表紙がアジア大会（インドネシア遠征者も加える）代表選手の記念写真で、これは絶対、まちがいない。

記事は、大きいテーマの特集一本でと考えている。

【バドミントン界】　第16号
昭和45年11月25日 印刷
昭和45年12月1日 発行
編集兼発行人　川端昇市
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都江東区永代一の五の二
有限会社　和田印刷所
定価　一部　百円

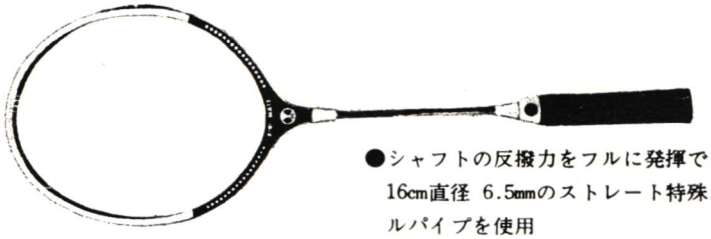
反撥力 抜群!

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE





●シャフトの反撥力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用

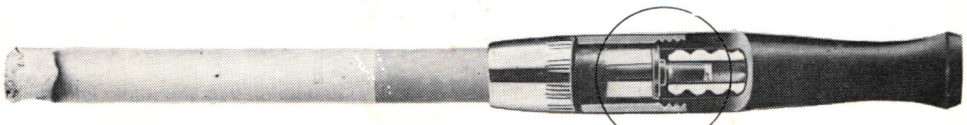
●小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群

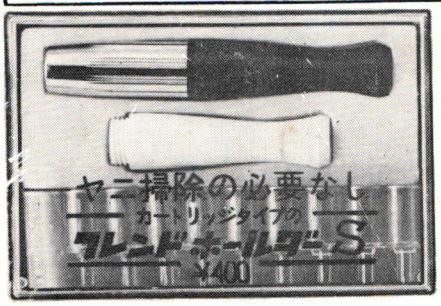
サンバタ
株式会社 諸江製作所 東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話(377) 4401(代表)

月刊「バドミントン」
第十六号
昭和四十五年十二月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日　第三種郵便物認許
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百円



ヤニ掃除の必要がなくなりました――《有害タール》を約90%もとるパイプです

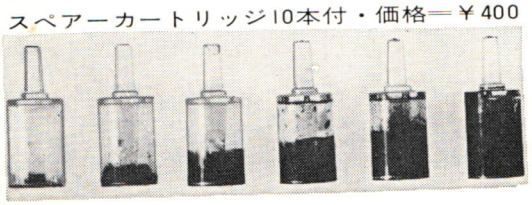




カートリッジタイプの

フレンドホルダーS

スペアーカートリッジ10本付・価格―￥400



PAT. NO. 800395/PAT. P. NO. 42. 44127·43. 22729

1本目　3本目　5本目　10本目　15本目　20本目

フレンドホルダーSS　フレンドホルダーSL　フレンドホルダーS ブライヤー本象牙

たばこ店・デパート・薬局・喫煙具店・駅主要売店にて発売中

発売元
テラサキ株式会社
東京都江戸川区興宮町43